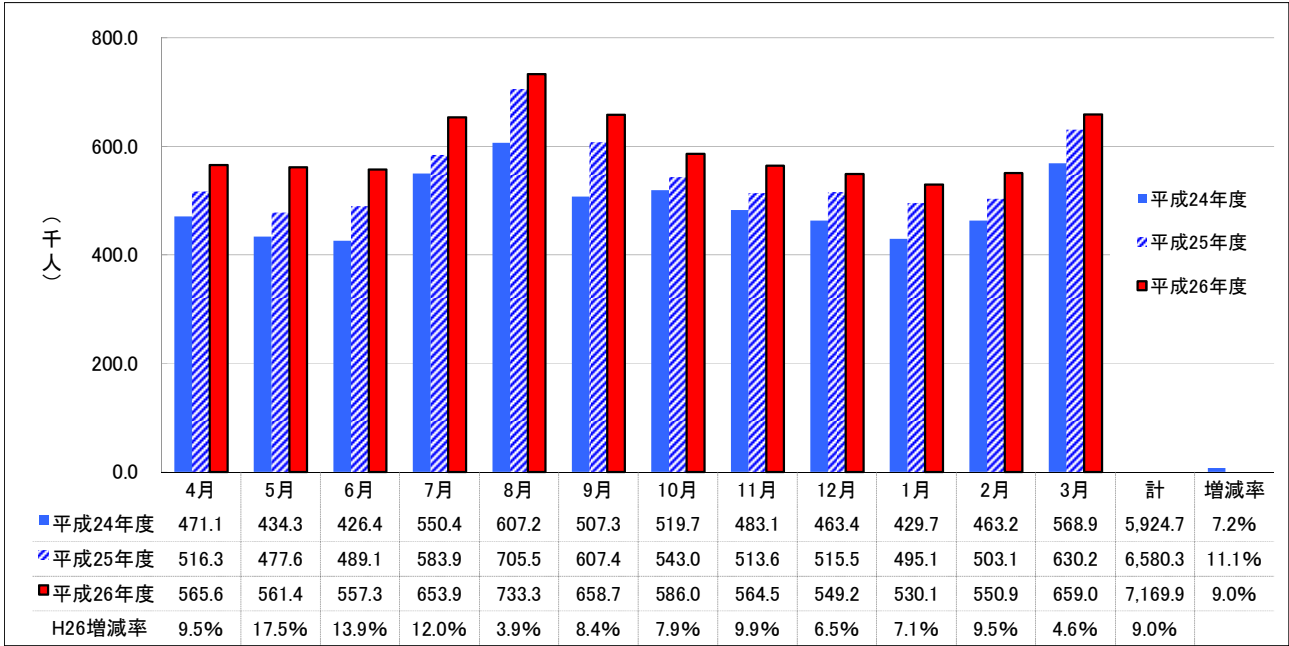


平成 26 年度 沖縄県入域観光客統計概況

文化観光スポーツ部 観光政策課
平成 27 年 4 月発表

平成 26 年度の観光客数は、716 万 9,900 人で過去最高
対前年度 (H25) 比 +58 万 9,600 人、+9.0%

■月別入域観光客数の推移（平成 24 年度～平成 26 年度）



■平成 26 年度の概況（総括）

平成 26 年度の入域観光客数は 716 万 9,900 人で、対前年度比 58 万 9,600 人増加、率にして 9.0% の増加となり、2 年連続で過去最高を更新し、初の 700 万人台を記録した。

また、昨年引き続き国内客・外国客ともに過去最高の入込となり、国内客は初の 600 万人台を超え、外国客は 100 万人に届く勢いとなっている。

月別では、全ての月において前年同月を上回るとともに、各月の過去最高記録を更新した。

前年度と比べて増加した要因は次の通りと考えられ、特に外国客の増加が大きく寄与している。

- 円安の継続に伴う国内および訪日旅行需要増
- 海外航空路線の拡充・クルーズ船の寄港回数増による外国人観光客の増
- 那覇空港新国際線旅客ターミナルビル・那覇港旅客船ターミナルの供用開始
- 国内外における官民上げての継続したプロモーション活動

■平成 27 年度の見通し

景気は緩やかな回復基調にあることに加え、円安も継続すると予想されており、国内旅行市場は堅調に推移するとみられるものの、国内観光地との競合が想定される。

また、外国客については、訪日旅行需要の高まりに加え、ソウルー那覇路線新規就航（ピーチアビエーション）など航空路線拡充の動きがあることや、クルーズ船の寄港回数の増が予定されていることなどから、引き続き、好調に推移するものと見込まれる。

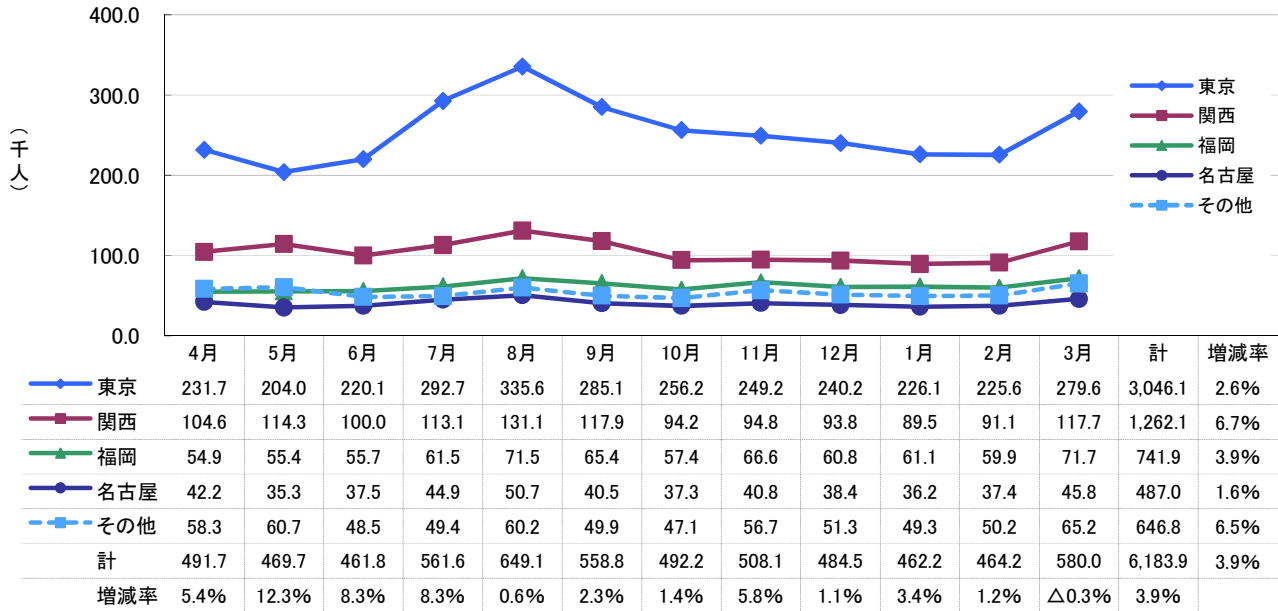
4 月下旬に県内最大級の多機能複合型ショッピングモールの開業や、夏場のリゾートホテル新規開業、スポーツコミッション沖縄の本格稼働開始等、受入体制の充実による誘客効果が期待出来る。

国内観光客の動向

■入域観光客数（国内）

平成 26 年度の国内客は、618 万 3,900 人で、前年比で 23 万 800 人増、3.9%の増となり、過去最高となった。これまでの国内客の過去最高の入込は、平成 25 年度の 595 万 3,100 人。

■平成 26 年度国内観光客の状況（方面別の月別推移）



■国内観光客の概況

平成 26 年度は円安および景気回復基調が継続し、4 月の消費税増税後も国内旅行需要は堅調に推移した。LCC および新石垣空港開港による効果は昨年ほど顕著ではないものの、JAL の伊丹ー那覇路線、ANA の羽田ー石垣路線の増便や、ピーチアビエーションの福岡ー那覇路線の新規就航等により、前年度を上回った。

【方面別の動向】

東京方面 LCC（ジェットスター・ジャパン、バンニラエア）および石垣路線の好調による増加傾向で推移。後半は一部キャリアの運休等による成田路線の入込が減少したが、羽田ー石垣路線の増便等により好調を維持し、全体で増加した。

関西方面 提供座席が増加した伊丹ー那覇路線からの入込増が全体を押し上げ、好調に推移し、増加率は主要方面で最も高かった。

福岡方面 福岡ー那覇路線において、ピーチアビエーションの新規就航（7 月）および既存航空会社の増便があり、入込客数・増加率ともに前年度を上回った。

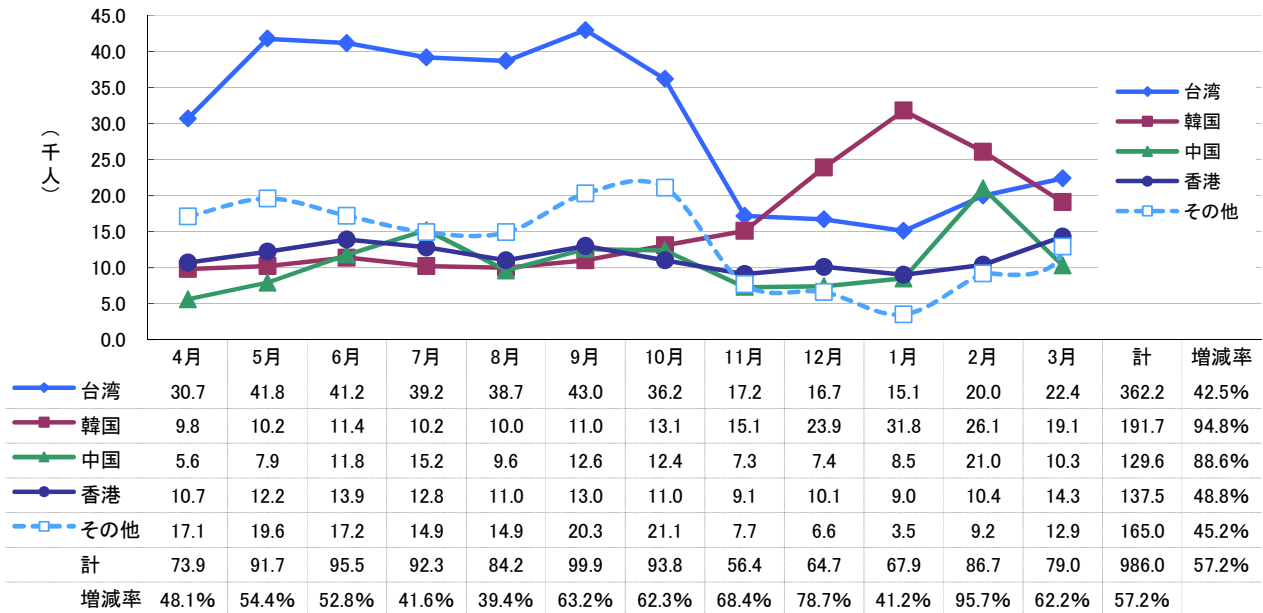
名古屋方面 昨年の増加要因であった石垣方面の伸びが落ち着いたが、全体として堅調に推移した。

外国人観光客の動向

■入域観光客数（外国）

平成 26 年度の外国客は、98 万 6,000 人で、前年比で 35 万 8,800 人増、57.2%の増となり、国内客同様過去最高となった。これまでの外国客の過去最高の入込は、平成 25 年度の 62 万 7,200 人。
 なお、クルーズ船の乗務員等を除いた外国客は、88 万 7,000 人であった。

■平成 26 年度外国人観光客の状況（方面別の月別推移）



■外国人観光客の概況

平成 26 年度も円安が継続し、訪日旅行需要が高かったことに加え、重点市場（台湾、韓国、中国、香港）において航空路線の新規就航および既存路線の増便があり、空路客が大幅に増加した。また、クルーズ船の寄港回数増により、海路客も増加した。

さらに、こうした要因に加え、那覇空港新国際線旅客ターミナルビル及び那覇港旅客船ターミナルの供用開始などハード面が整備されたことも、外国客の増加に寄与したと考えられる。

【国籍別の動向】

台湾 台北-那覇路線、高雄-那覇路線で新規就航・増便等があり、空路客を中心に増加。過去最高であった昨年を上回り、初の 30 万人台となった。

韓国 年度後半において、アジアナ航空・ジンエアーの増便、韓国 L C C 2 社の新規就航があり、ソウル-那覇路線が拡充、重点市場の中で最も高い増加率となった。

中国本土 新規路線の就航や春節時期の大幅な入込もあり、過去最高となった。クルーズ船の寄港により、海路客も増加した。

香港 香港航空の香港-那覇路線が増便したことや、ピーチアビエーションの香港-那覇路線の新規就航等により、空路客を中心に増加し、過去最高となった。

平成26年（2014）4月 入域観光客数概況

4月の観光客数は、56万5,600人
対前年（H25）同月比 +4万9,300人、+9.5%
～19か月連続で前年同月を上回る～

入域状況

入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	491,700 人	466,400 人	+ 25,300人	+ 5.4%	86.9%
外国客	73,900 人	49,900 人	+ 24,000人	+ 48.1%	13.1%
合計	565,600 人	516,300 人	+ 49,300人	+ 9.5%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	491,700 人	466,400 人	+ 25,300人	+ 5.4%	88.6%
外国客	63,100 人	37,600 人	+ 25,500人	+ 67.8%	11.4%
合計	554,800 人	504,000 人	+ 50,800人	+ 10.1%	100.0%

平成23年度～26年度入域観光客数



国内客 入域状況

4月は、大阪・名古屋方面を中心に好調に推移した。米子一那覇路線の新規就航もあり、主要方面以外からの入込も増加した。消費税増税の影響は顕著にはみられない。

GWの日並びの影響で5月上旬の旅行需要がおう盛であったことから、実績は各社おおむね好調であり、5月も好調に推移する見込み。

外国客 入域状況

4月は、初旬の本土の桜ツアーが人気だが、前年度に比べ航空路線が拡充した影響で空路客が増加した。海路客はクルーズ船の寄港回数が前年並みだったため、やや減となった。

5月は、クルーズ船の寄港予定が前年同月を上回っていることから、海路からの入込増が期待できる。韓国は、旅客船沈没事故の影響で旅行需要が減少しており、空路・海路ともに鈍化する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	231,700 人	227,700 人	+ 4,000人	+ 1.8%	47.1%
関西方面	104,600 人	94,800 人	+ 9,800人	+ 10.3%	21.3%
福岡方面	54,900 人	53,800 人	+ 1,100人	+ 2.0%	11.2%
名古屋	42,200 人	39,800 人	+ 2,400人	+ 6.0%	8.6%
その他	58,300 人	50,300 人	+ 8,000人	+ 15.9%	11.9%
合計	491,700 人	466,400 人	+ 25,300人	+ 5.4%	100.0%

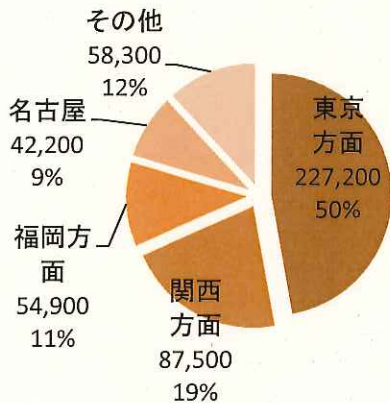
※国内海路客7,100人を含む(関東:3,100人、関西:100人、鹿児島:2,700人、その他:1,200人)

外国客 国籍別入域状況

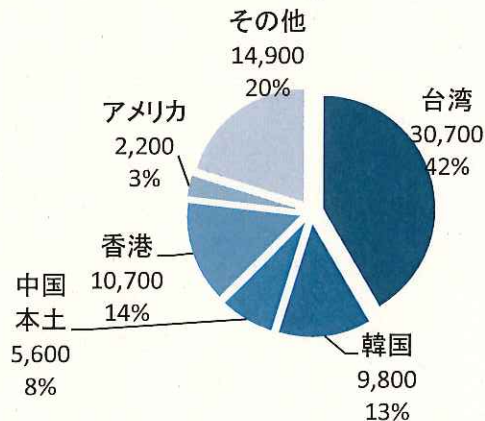
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H26年度	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
	(特例除く)	(特例含む)	(特例含む)			
台湾	30,700 人	30,700 人	22,100 人	+ 8,600人	+38.9%	41.5%
韓国	9,800 人	9,800 人	4,200 人	+ 5,600人	+133.3%	13.3%
中国本土	5,600 人	5,600 人	4,000 人	+ 1,600人	+40.0%	7.6%
香港	10,700 人	10,700 人	7,300 人	+ 3,400人	+46.6%	14.5%
アメリカ	2,200 人	2,200 人	500 人	+ 1,700人	+340.0%	3.0%
その他	4,100 人	14,900 人	11,800 人	+ 3,100人	+26.3%	20.2%
合計	63,100 人	73,900 人	49,900 人	+ 24,000人	+48.1%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比
台湾	19,800 人	19,800 人	+88.6%	39.4%	10,900 人	10,900 人	△6.0%	46.0%
韓国	9,800 人	9,800 人	+139.0%	19.5%	0 人	0 人	+0.0%	0.0%
中国本土	5,600 人	5,600 人	+366.7%	11.2%	0 人	0 人	-	0.0%
香港	10,700 人	10,700 人	+57.4%	21.3%	0 人	0 人	-	0.0%
アメリカ	700 人	700 人	+40.0%	1.4%	1,500 人	1,500 人	皆増	6.3%
その他	3,600 人	3,600 人	+89.5%	7.2%	500 人	11,300 人	+14.1%	47.7%
合計	50,200 人	50,200 人	+100.8%	100.0%	12,900 人	23,700 人	△4.8%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

4月は、羽田-石垣路線の再開やLCCの影響を受けた前年に比べ、増加率が小さく、ほぼ前年度並みとなった。5月は、GW後半がピークであることや、修学旅行が増加するシーズンでもあることから前年度を上回る見込み。6月以降は、予約状況が好調であり、サマーダイヤの増便、深夜便の新規開設などが予定されていることから、夏場に向けて好調に推移すると予想される。

大阪

4月は、拡充した伊丹-那覇路線が好調であり、前年を上回った。日並びの影響でGWの前半はやや厳しくなると予想されたが、直前の駆け込み需要が多かったもよう。

5月は、GW後半が好調であり、連休以降も前年度並みかそれを超える見込みである。

福岡

4月は、特に大きな変動要因は無く前年並みとなった。

5月は、予約状況がほぼ前年並みであることに加え、USJやあべのハルカスのある関西方面への旅行需要に流れていることから、やや鈍化傾向にある。7月にLCCの新規路線就航が予定されていることから、沖縄旅行の需要拡大が期待できる。

名古屋

4月は、前年度に比べ沖縄への送客が好調に推移し、増加した。引き続き石垣直行便が好調である。

5月は、集客が前年を上回って好調に推移していることから、増加する見込み。GWには東海地方から宮古島へのチャーターツアーが行われた。

台湾

4月は、前年に比べ拡充した航空路線の影響で、空路客を中心に増加した。海路客は、前年並みとなった。

5月には、クルーズ船の寄港増、また6月以降は航空路線拡充が予定されていることから、夏場に向け空路・海路ともに好調に推移する見込み。

韓国

4月は、路線拡充の影響で前年比増となった。沖縄方面は修学旅行や公務員関係ツアーが少ないことから旅客船沈没事故の影響は比較的小さかったものと思われる。

5月は、沈没事故による旅行自粛ムードの影響で航空路線の定期便やクルーズツアーの新規予約が苦戦を強いられていることから、空路・海路ともに鈍化する見込み。

中国本土・北京

4月は、桜シーズンの本州向けツアーの需要が高いが、尖閣諸島関連の影響を受けた前年同月に比べ増加した。

5月は、連休(労働節からの3日間)により旅行需要が高まり、海外旅行が増加傾向にある。

中国本土・上海

4月は、前年同月に比べ吉祥航空・中国東方航空が路線拡充したことから、前年実績を上回った。

5月は、上海発クルーズ船の寄港が予定されており、海路客の増加が期待できる。6月以降もクルーズ船の寄港や航空路線拡充の予定があり、空路・海路ともに好調に推移する見込み。

香港

4月は、香港航空の増便とイースターホリディの旅行需要の高まりにより好調に推移した。

5月以降は、夏場に向け旅行商品も増加し、個人・団体旅行ともに需要が高まる見込み。

平成26年（2014）5月 入域観光客数概況

5月の観光客数は、56万1,400人
対前年（H25）同月比 +8万3,800人、+17.5%
～5月の過去最高を記録、外国客は単月過去最高の9万人超～

入域状況

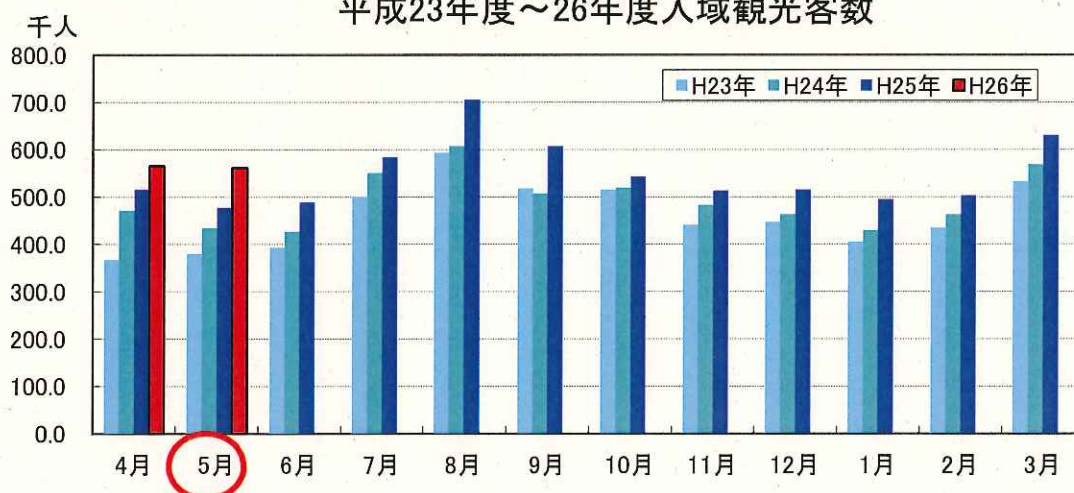
入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	469,700 人	418,200 人	+ 51,500人	+ 12.3%	83.7%
外国客	91,700 人	59,400 人	+ 32,300人	+ 54.4%	16.3%
合計	561,400 人	477,600 人	+ 83,800人	+ 17.5%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	469,700 人	418,200 人	+ 51,500人	+ 12.3%	86.0%
外国客	76,400 人	47,000 人	+ 29,400人	+ 62.6%	14.0%
合計	546,100 人	465,200 人	+ 80,900人	+ 17.4%	100.0%

平成23年度～26年度入域観光客数



国内客 入域状況

5月は、空路客がGW期間中好調であったことに加え連休以後も好調を維持したこと、また国内クルーズ船の寄港により海路客が大幅に増加したことから前年度を上回った。

6月は、各方面とも予約状況がよく、クルーズ船の寄港が予定されていることから、空路・海路とも増加する見込み。LCC3社が欠航を予定しているが、前年度並の座席数は確保出来ることから、影響は少ないと予想される。

外国客 入域状況

5月は、引き続き航空路線拡充の影響により空路客が増加した。クルーズ船の寄港回数が前年度より多かったため、海路客も前年同月より増加した。

6月は、航空路線の増便・新規就航とクルーズ船の寄港回数の増加により、好調に推移する見込み。ロシアからのチャーターツアーが予定されており、主要方面以外からの入込も期待出来る。

国内客 地域別入域状況

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	204,000 人	187,000 人	+ 17,000人	+ 9.1%	43.4%
関西方面	114,300 人	100,100 人	+ 14,200人	+ 14.2%	24.3%
福岡方面	55,400 人	51,300 人	+ 4,100人	+ 8.0%	11.8%
名古屋	35,300 人	33,000 人	+ 2,300人	+ 7.0%	7.5%
その他	60,700 人	46,800 人	+ 13,900人	+ 29.7%	12.9%
合計	469,700 人	418,200 人	+ 51,500人	+ 12.3%	100.0%

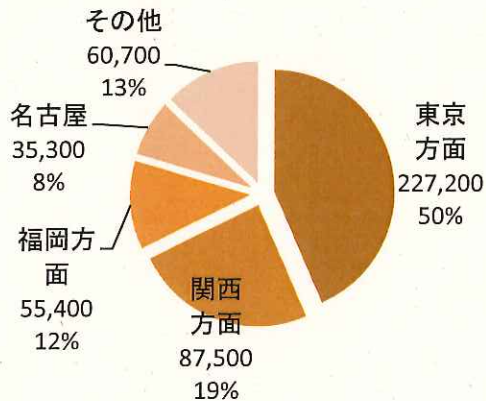
※国内海路客17,000人を含む(東京方面:100人、関西方面:5,000人、鹿児島:11,900人)

外国客 国籍別入域状況

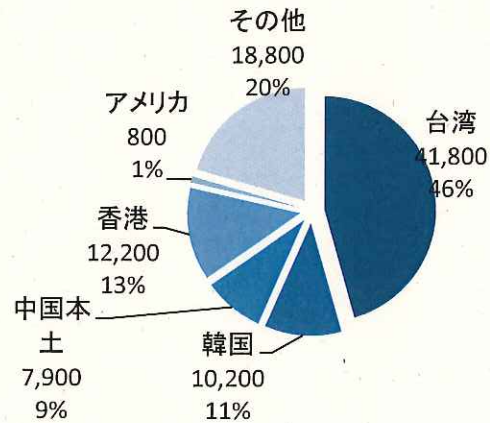
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H26年度	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
	(特例除く)	(特例含む)	(特例含む)			
台湾	41,800 人	41,800 人	27,000 人	+ 14,800人	+54.8%	45.6%
韓国	10,200 人	10,200 人	5,700 人	+ 4,500人	+78.9%	11.1%
中国本土	7,900 人	7,900 人	4,000 人	+ 3,900人	+97.5%	8.6%
香港	12,200 人	12,200 人	9,100 人	+ 3,100人	+34.1%	13.3%
アメリカ	800 人	800 人	400 人	+ 400人	+100.0%	0.9%
その他	3,500 人	18,800 人	13,200 人	+ 5,600人	+42.4%	20.5%
合計	76,400 人	91,700 人	59,400 人	+ 32,300人	+54.4%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比
台湾	23,700 人	23,700 人	+74.3%	44.3%	18,100 人	18,100 人	+35.1%	47.4%
韓国	9,100 人	9,100 人	+62.5%	17.0%	1,100 人	1,100 人	+1000.0%	2.9%
中国本土	4,700 人	4,700 人	+291.7%	8.8%	3,200 人	3,200 人	+14.3%	8.4%
香港	12,100 人	12,100 人	+34.4%	22.6%	100 人	100 人	+0.0%	0.3%
アメリカ	700 人	700 人	+75.0%	1.3%	100 人	100 人	皆増	0.3%
その他	3,200 人	3,200 人	+23.1%	6.0%	300 人	15,600 人	+47.2%	40.8%
合計	53,500 人	53,500 人	+65.1%	100.0%	22,900 人	38,200 人	+41.5%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

5月は、GW後半が好調であったことに加え、期間全体で前年度を上回り、好調に推移した。中旬から下旬にかけては団体旅行・修学旅行の入込が目立った。
6月は、各社とも予約状況が好調に推移しており、前年度比増となる見込みである。

大阪

5月は、上旬のGWが好調であり、連休以降は修学旅行や低価格商品などが押し上げ要因となり、前年度比増となった。伊丹－那覇路線が引き続き好調である。
6月以降は、夏商品の販売が好調であり、特に離島(八重山)関連商品の予約状況が大きく伸びていることから、前年度を上回る見通し。提供座席の増便分についてはさらなる需要喚起が必要である。

福岡

5月は、上旬はやや減となったが、中旬・下旬が好調であり前年度比増となった。関西方面への旅行需要が大きく伸びており、沖縄方面への送客がやや鈍化傾向にある。
6月はほぼ前年度並み、7月以降は他方面との競合で伸び悩んでいるが、ピーチアビエーションの福岡－那覇路線の新規就航が沖縄方面全体への旅行需要喚起につながると期待される。

名古屋

5月は、旅行商品の販売開始が早く、早期に集客できたことも一因となり、連休以降も好調を維持し前年度比増となった。
6・7月の予約状況は前年度を上回っており、夏場にむけて好調に推移する見込み。

台湾

5月は、航空路線の拡充とクルーズ船の寄港回数の増により、空路・海路ともに前年度を上回った。
6月以降は、航空路線の新規就航・増便が予定されていることから、空路客の増加が見込まれ、海路客もクルーズ船の寄港により好調に推移する見込み。

韓国

5月は、空路・海路ともに前年同月を上回った。特に海路客は韓国からの初めてのクルーズツアーがあり、沈没事故の影響で予約が伸び悩んだものの、前年同月に比べ大幅に増加した。
6月は、上旬の連休をきっかけに旅行心理が回復傾向に向かうと予想され、機材の大型化やチャーター便の就航により、空路客を中心に増加することが期待できる。

中国本土・北京

5月は、労働節の連休により旅行需要が高まったことに加え、尖閣諸島関連の影響で直行便が無かった前年同月に比べ、空路客を中心に増加した。
6月は、天津航空の天津－那覇路線のチャーター便(1年間)が就航することから、北京・天津・河北など中国北部からの観光客が増加する見込み。チャーターツアーが予定されているロシアからの入込も増加する見込み。

中国本土・上海

5月は、労働節連休による旅行需要の高まりや吉祥航空・中国東方航空の路線拡充の影響、上海発クルーズ船の寄港により、空路・海路ともに前年同月を上回った。
6月は、上旬の端午節連休による旅行需要と中国東方航空の上海－那覇路線の増便により、空路客を中心に増加する見込み。多くの旅行社で東南アジアから沖縄への振り替えが始まっており、夏場に向けて入込増が期待できる。

香港

5月は、先月に引き続き路線拡充の影響により好調に推移した。沖縄方面は東京と並んで人気があり、個人旅行客・団体客ともに好調を維持している。
6月以降は、航空会社の搭乗率が5月後半から向上しており、夏場に向けてさらなる入込増が期待できる。日本・沖縄向けの旅行需要は好調に推移する見込み。

平成26年（2014）6月 入域観光客数概況

6月の観光客数は、55万7,300人
対前年（H25）同月比 +6万8,200人、+13.9%
～6月の過去最高を記録、外国客は2ヶ月連続9万人超～

入域状況

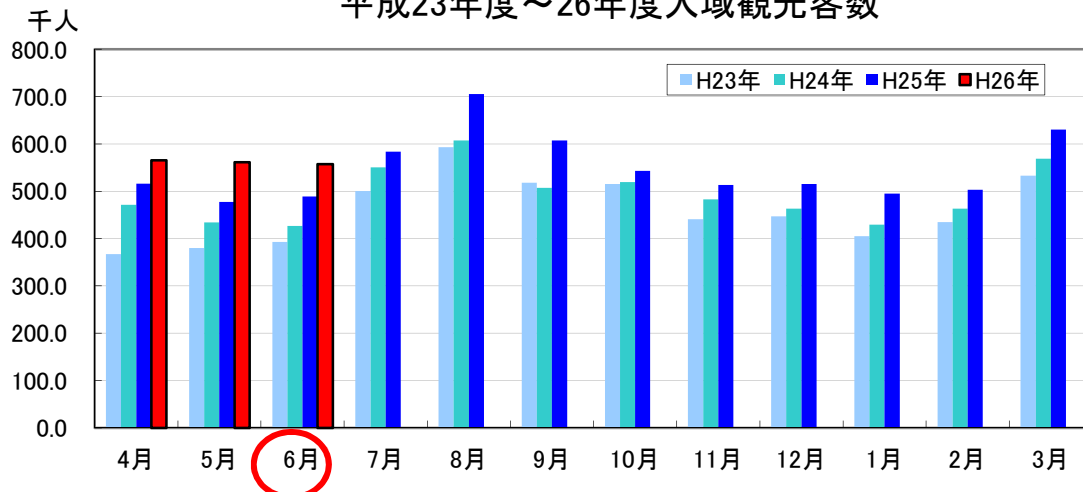
入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	461,800 人	426,600 人	+ 35,200人	+ 8.3%	82.9%
外国客	95,500 人	62,500 人	+ 33,000人	+ 52.8%	17.1%
合計	557,300 人	489,100 人	+ 68,200人	+ 13.9%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	461,800 人	426,600 人	+ 35,200人	+ 8.3%	84.7%
外国客	83,700 人	53,700 人	+ 30,000人	+ 55.9%	15.3%
合計	545,500 人	480,300 人	+ 65,200人	+ 13.6%	100.0%

平成23年度～26年度入域観光客数



国内客 入域状況

6月は、各方面とも好調に推移し前年度を上回った。LCC3社の減便があったものの、沖縄方面全体の提供座席数は前年度並みであったため、影響は大きくなかった。

7月は、上旬の台風8号の影響とUSJの新アトラクションによる関西方面との競合が懸念材料だが、夏場の旅行需要に加え、航空会社各社の増便や沖縄方面の旅行人気、夏季賞与の増額も後押しとなり、引き続き好調に推移する見込み。

外国客 入域状況

6月は、上旬の連休による旅行需要が旺盛であり、空路客が路線拡充により大幅に伸びたこと、クルーズ船の寄港により海路客も好調であったことなどから、3ヶ月連続で過去最高となった。

7月は、国内同様上旬の台風の影響があるものの、航空路線の増便やチャーター便の就航およびクルーズ船の寄港が予定されており、空路・海路ともに増加する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	220,100 人	205,500 人	+ 14,600人	+ 7.1%	47.7%
関西方面	100,000 人	92,100 人	+ 7,900人	+ 8.6%	21.7%
福岡方面	55,700 人	52,500 人	+ 3,200人	+ 6.1%	12.1%
名古屋	37,500 人	36,200 人	+ 1,300人	+ 3.6%	8.1%
その他	48,500 人	40,300 人	+ 8,200人	+ 20.3%	10.5%
合計	461,800 人	426,600 人	+ 35,200人	+ 8.3%	100.0%

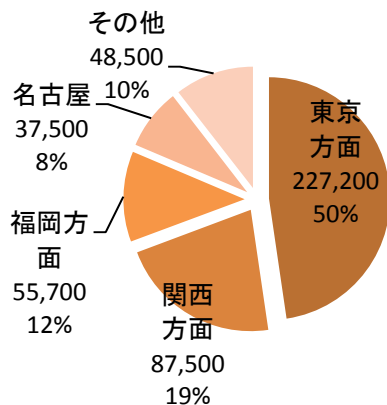
※国内海路客4,400人を含む(東京方面:100人、関西方面:200人、鹿児島:4,100人)

外国客 国籍別入域状況

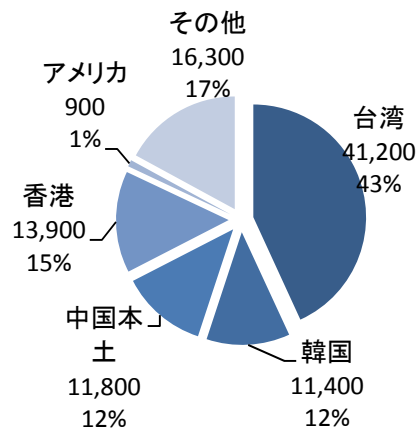
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H26年度	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	41,200 人	41,200 人	28,900 人	+ 12,300人	+42.6%	43.1%
韓国	11,400 人	11,400 人	6,400 人	+ 5,000人	+78.1%	11.9%
中国本土	11,800 人	11,800 人	4,400 人	+ 7,400人	+168.2%	12.4%
香港	13,900 人	13,900 人	9,100 人	+ 4,800人	+52.7%	14.6%
アメリカ	900 人	900 人	1,000 人	△ 100人	△10.0%	0.9%
その他	16,300 人	4,500 人	12,700 人	△ 3,600人	+28.3%	17.1%
合計	95,500 人	83,700 人	62,500 人	+ 33,000人	+52.8%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	29,700 人	29,700 人	+55.5%	43.2%	11,500 人	11,500 人	+17.3%	42.9%
韓国	11,400 人	11,400 人	+78.1%	16.6%	0 人	0 人	-	0.0%
中国本土	8,400 人	8,400 人	+250.0%	12.2%	3,400 人	3,400 人	+70.0%	12.7%
香港	13,900 人	13,900 人	+54.4%	20.2%	0 人	0 人	皆減	0.0%
アメリカ	800 人	800 人	+60.0%	1.2%	100 人	100 人	△80.0%	0.4%
その他	4,500 人	4,500 人	+73.1%	6.6%	11,800 人	0 人	+16.8%	44.0%
合計	68,700 人	68,700 人	+71.8%	100.0%	26,800 人	15,000 人	+19.1%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

6月は、音楽・スポーツイベント等の誘客効果もあり、前年度を上回った。企業の業績改善を背景に社員旅行などの団体旅行も好調であった。商品単価も上昇している。
7月は、上旬の台風の影響が懸念されるが、深夜便を含め沖縄への順調な送客が見込まれることから、好調に推移する見込み。

大阪

6月は、関西・神戸ー那覇路線は減少したものの、伊丹ー那覇路線の好調により、関西方面としては前年度より増加した。旅行商品の早期販売により、6月の需要の落ち込みをカバーした旅行社もあった。
7月以降は、予約が順調に伸びており、今後駆け込みでの需要も期待できることから、夏場に向けて好調に推移する見込み。

福岡

6月は、低価格帯商品や特典付きの旅行商品を中心に集客を伸ばし、前年度を上回った。
7月は、予約状況が好調であり、中旬にはピーチアビエーションの福岡ー那覇路線の新規就航も予定されていることから、前年度を上回る見込み。旅行商品は本島方面が中心だが、離島方面では直行便利用の商品が人気である。

名古屋

6月は、団体旅行の好調などにより前年度をやや上回った。本島路線が集客を伸ばしており、石垣直行便は新石垣空港の開港効果があった前年度に比べ鈍化している。
7月以降は、予約状況が前年度以上で推移しており、名古屋ー那覇路線で増便が予定されていることから、増加する見込み。

台湾

6月は、エバー航空の新規就航、華信航空の増便などにより空路客が増加した。また、スーパースターアキュアスの寄港により、海路客も好調に推移した。
7月は、台風8号の影響で航空便・クルーズ船に欠航が出たが、中華航空の高雄ー那覇路線の増便など航空路線の拡充やクルーズ船の寄港回数の増加により、空路・海路ともに前年度を上回る見込み。

韓国

6月は、上旬に最大5日間の連休があり、連休以後も繁忙期を避けての早い夏休み客の需要があったことから、前年同月を上回った。連休中のチャーター便や一部の便で機材の大型化があり、空路客が増加した。
7月以降は、夏休みの旅行需要や日本向けインセンティブツアーも回復傾向にあることから、好調に推移する見込み。

中国本土・北京

6月は、新たに就航した天津航空の天津ー那覇路線のチャーター便が高い搭乗率で推移しており、空路客を中心に前年同月を上回った。また、チャーターツアーがあったロシアからの観光客も大幅に増加した(前年度100人→今年度600人)。
7月以降は、瀋陽・大連発のチャーター便が予定されており、中国東北部からの観光客の増加が期待できる。

中国本土・上海

6月は、上旬の連休による旅行需要と中国東方航空の上海ー那覇路線の増便など航空路線の拡充、上海発クルーズ船の寄港により、空路・海路ともに好調に推移した。
7月以降は、夏休みにより旅行需要が増大する時期であり、吉祥航空の上海ー那覇路線の夏期増便やクルーズ船の寄港が予定されていることから、前年度より増加する見込み。

香港

6月は、訪日旅行の人气が継続しており、沖縄方面についても団体・個人旅行ともに販売状況が好調であるため、前年度を上回った。航空会社の搭乗率も上昇傾向にある。
7月以降については、夏休みの旅行需要の高まりに加え、前年同時期に比べ航空路線が拡充していることから、引き続き空路客を中心に好調に推移する見込み。

平成26年（2014）7月 入域観光客数概況

7月の観光客数は、65万3,900人
対前年（H25）同月比 +7万人、+12.0%
～7月の過去最高を記録、初の60万人台～

入域状況

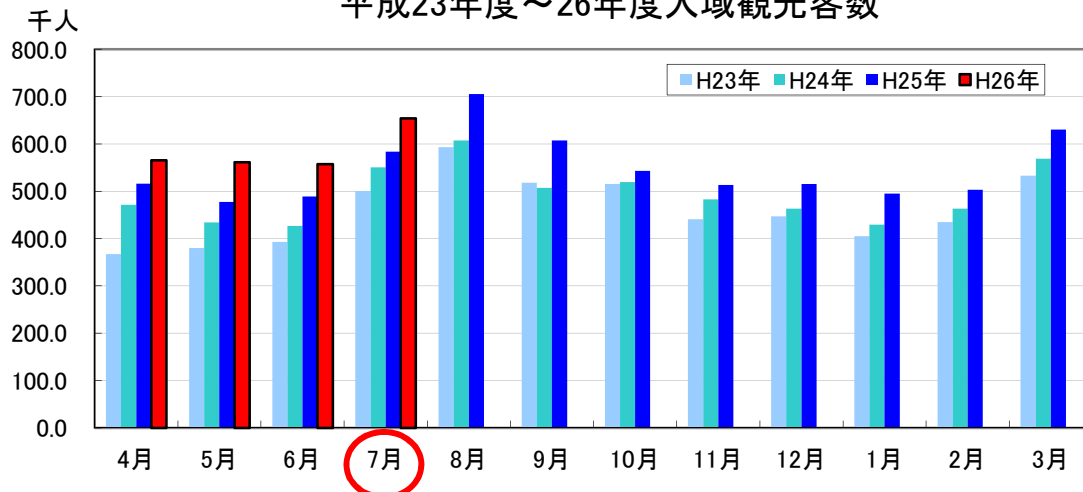
入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	561,600 人	518,700 人	+ 42,900人	+ 8.3%	85.9%
外国客	92,300 人	65,200 人	+ 27,100人	+ 41.6%	14.1%
合計	653,900 人	583,900 人	+ 70,000人	+ 12.0%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	561,600 人	518,700 人	+ 42,900人	+ 8.3%	87.3%
外国客	81,400 人	56,400 人	+ 25,000人	+ 44.3%	12.7%
合計	643,000 人	575,100 人	+ 67,900人	+ 11.8%	100.0%

平成23年度～26年度入域観光客数



国内客 入域状況

7月は、台風8号の影響で上旬は減少したものの、中旬・下旬は好調であった。台風の影響で提供座席数はやや減少したものの、夏休みの旅行シーズンということもあり、利用率が向上し、前年度を上回った。

8月は、台風11号の影響でキャンセル等があったものの、旅行需要は好調であることから前年度並みは期待出来る見込み。

外国客 入域状況

7月は、国内客同様台風の影響があったものの、空路客を中心に増加した。特に航空路線拡充とクルーズ船の寄港により空路海路ともに好調であった中国の伸びが大きい。

8月は、夏休みの旅行シーズンの旅行需要と航空路線の拡充により前年度を上回る見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	292,700 人	266,900 人	+ 25,800人	+ 9.7%	52.1%
関西方面	113,100 人	104,100 人	+ 9,000人	+ 8.6%	20.1%
福岡方面	61,500 人	59,100 人	+ 2,400人	+ 4.1%	11.0%
名古屋	44,900 人	41,800 人	+ 3,100人	+ 7.4%	8.0%
その他	49,400 人	46,800 人	+ 2,600人	+ 5.6%	8.8%
合計	561,600 人	518,700 人	+ 42,900人	+ 8.3%	100.0%

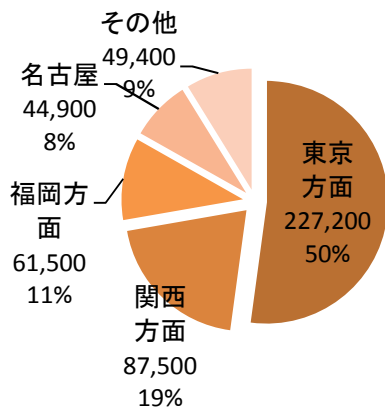
※国内海路客2,700人を含む(大分:800人、鹿児島:1,900人)

外国客 国籍別入域状況

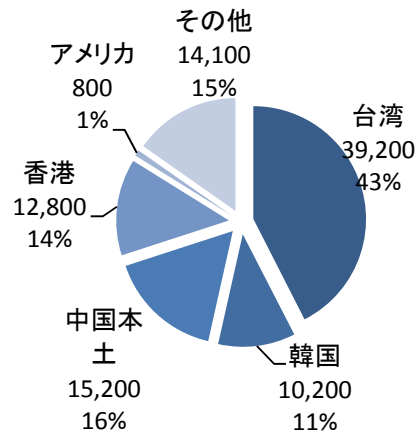
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H26年度	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	39,200 人	39,200 人	32,800 人	+ 6,400人	+19.5%	42.5%
韓国	10,200 人	10,200 人	7,800 人	+ 2,400人	+30.8%	11.1%
中国本土	15,200 人	15,200 人	5,400 人	+ 9,800人	+181.5%	16.5%
香港	12,800 人	12,800 人	9,600 人	+ 3,200人	+33.3%	13.9%
アメリカ	800 人	800 人	600 人	+ 200人	+33.3%	0.9%
その他	14,100 人	3,200 人	9,000 人	+ 5,100人	+56.7%	15.3%
合計	92,300 人	81,400 人	65,200 人	+ 27,100人	+41.6%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	29,200 人	29,200 人	+43.1%	44.9%	10,000 人	10,000 人	△19.4%	36.6%
韓国	10,200 人	10,200 人	+30.8%	15.7%	0 人	0 人	-	0.0%
中国本土	9,000 人	9,000 人	+164.7%	13.8%	6,200 人	6,200 人	+210.0%	22.7%
香港	12,700 人	12,700 人	+33.7%	19.5%	100 人	100 人	+0.0%	0.4%
アメリカ	800 人	800 人	+33.3%	1.2%	0 人	0 人	-	0.0%
その他	3,100 人	3,100 人	+40.9%	4.8%	11,000 人	100 人	+61.8%	40.3%
合計	65,000 人	65,000 人	+48.1%	100.0%	27,300 人	16,400 人	+28.2%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

7月は、台風の影響があったものの、関東方面での沖縄旅行人気は継続しており、石垣路線や深夜便も好調であり、前年度を上回った。

8月以降は、上旬の台風の影響が懸念されるものの、沖縄観光のトップシーズンであり、本島・離島ともに旅行商品の販売が好調であることから、増加する見込み。

大阪

7月は、台風の影響を受けた上旬を含め、期間全体を通して前年度を上回った。関空－石垣路線や那覇を経由した宮古・久米島への旅行など、離島方面も好調に推移している。

8月は、予約状況は前年度並であったが、台風11号の影響により、前年同月より大幅な増加は期待出来ない見込み。

福岡

7月は、台風の影響を受けたものの、沖縄方面への旅行人気やピーチアビエーションの福岡－那覇路線の新規就航もあり、前年度を上回った。

8月は、台風11号の影響と関西地方・九州内の地域との競合により、前年度並となる見込み。

名古屋

7月は、上旬の台風の影響を受けたものの、中旬・下旬が好調であった。また提供座席数は減少したが、利用率が上昇したため、前年度を上回った。夏向け商品の早期販売が送客につながったようである。

8月は、台風11号の影響が懸念されるものの、本島・離島ともに予約状況が好調であり、前年度並みとなる見込み。

台湾

7月は、華信航空の高雄－那覇路線の増便や6月のエバー航空の台北－那覇路線の新規就航により、空路客が増加した。クルーズ船の寄港回数は前年同月と同じであったが、海路客はやや減少となった。

8月は、路線拡充の影響により空路客が増加する見込み。海路客もスーパースターアキュアスの寄港が前年度より多く予定されていることから、増加が期待できる。

韓国

7月は、航空路線拡充の影響により空路客が好調に推移した。夏休みの時期であることから家族旅行が伸びた。

8月は、9月の秋夕連休のため、中旬以降は需要がやや減少する見込み。9月以降は、連休やクルーズ船の寄港が予定されており、好調に推移する見込み。

中国本土・北京

7月は、夏の旅行シーズンであり、空路客を中心に団体・個人ともに増加した。6月に就航した天津航空の天津－那覇便を利用した北京からの個人客が増加しているもよう。また瀋陽－沖縄のチャーター便により、中国北部からの入込も増加した。

8月以降は引き続き、航空路線の拡充により増加する見込み。インターネット販売の商品も好調であり、また会社単位での団体旅行も増加している。

中国本土・上海

7月は、夏休みの旅行需要に加え、吉祥航空や中国東方航空の上海－那覇路線の増便により空路客が増加した。また、クルーズ船の寄港があったことから、海路客も大幅に増加した。

8月は、航空路線の拡充により空路客を中心に増加する見込み。9月以降は、クルーズ船の寄港が予定されていることから海路客も伸びる見込み。

香港

7月は、夏休みの旅行需要拡大もあり、空路客を中心に好調に推移した。離島への関心も高まっているもよう。

8月以降は、引き続き航空路線拡充の影響により増加する見込み。予約状況は、個人・団体ともに好調である。

平成26年（2014）8月 入域観光客数概況

8月の観光客数は、**73万3,300人**
 対前年（H25）同月比 **+2万7,800人、+3.9%**
 ～2年連続70万人超、単月の過去最高を更新～

入域状況

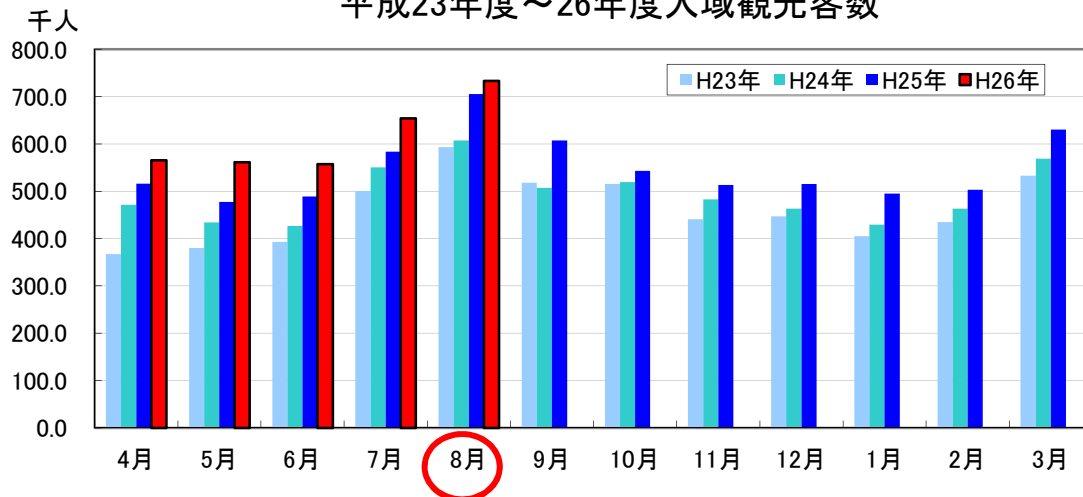
入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	649,100人	645,100人	+ 4,000人	+ 0.6%	88.5%
外国客	84,200人	60,400人	+ 23,800人	+ 39.4%	11.5%
合計	733,300人	705,500人	+ 27,800人	+ 3.9%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	649,100人	645,100人	+ 4,000人	+ 0.6%	89.8%
外国客	73,600人	53,000人	+ 20,600人	+ 38.9%	10.2%
合計	722,700人	698,100人	+ 24,600人	+ 3.5%	100.0%

平成23年度～26年度入域観光客数



国内客 入域状況

8月は、沖縄観光のトップシーズンであり、円安や景気回復基調の継続、沖縄旅行の人気により、増加が期待されたが、前半は台風11号・12号の影響でやや下回り、後半にかけて盛り返したものの、前年度並となった。

9月は、遅い夏休み旅行や2回の連休により旅行需要が継続するとみられ、予約状況も好調であることから、前年度を上回る見込み。

外国客 入域状況

8月は、夏場の旅行需要が高まる時期であり、空路・海路ともに好調に推移した。海路客は、スーパースターアクエアスの寄港回数の増により、前年度を上回った。

9月は、クルーズ船の寄港予定回数が前年度より大幅に増加していることから、海路客が好調に推移する見込み。空路客は、中華航空の台北－那覇路線の機材大型化に加え、シンガポールからのチャーター便など、主要方面以外からの入り込み増も期待できる。

国内客 地域別入域状況

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	335,600 人	323,400 人	+ 12,200人	+ 3.8%	51.7%
関西方面	131,100 人	132,600 人	△ 1,500人	△ 1.1%	20.2%
福岡方面	71,500 人	74,100 人	△ 2,600人	△ 3.5%	11.0%
名古屋	50,700 人	50,500 人	+ 200人	+ 0.4%	7.8%
その他	60,200 人	64,500 人	△ 4,300人	△ 6.7%	9.3%
合計	649,100 人	645,100 人	+ 4,000人	+ 0.6%	100.0%

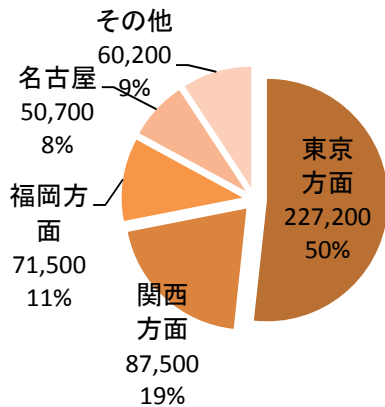
※国内海路客3,500人を含む(東京:100人、鹿児島:3,400人)

外国客 国籍別入域状況

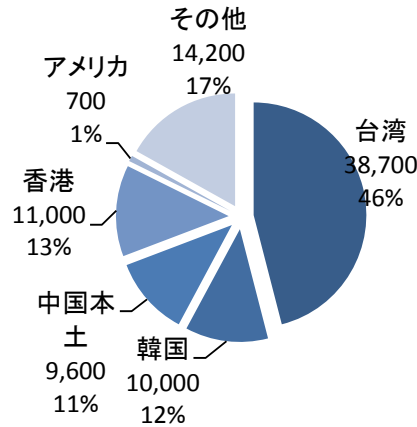
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H26年度	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	38,700 人	38,700 人	29,300 人	+ 9,400人	+32.1%	46.0%
韓国	10,000 人	10,000 人	7,200 人	+ 2,800人	+38.9%	11.9%
中国本土	9,600 人	9,600 人	5,100 人	+ 4,500人	+88.2%	11.4%
香港	11,000 人	11,000 人	9,400 人	+ 1,600人	+17.0%	13.1%
アメリカ	700 人	700 人	500 人	+ 200人	+40.0%	0.8%
その他	14,200 人	3,600 人	8,900 人	+ 5,300人	+59.6%	16.9%
合計	84,200 人	73,600 人	60,400 人	+ 23,800人	+39.4%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	24,500 人	24,500 人	+37.6%	41.2%	14,200 人	14,200 人	+23.5%	57.3%
韓国	10,000 人	10,000 人	+38.9%	16.8%	0 人	0 人	-	0.0%
中国本土	9,600 人	9,600 人	+174.3%	16.2%	0 人	0 人	皆減	0.0%
香港	11,000 人	11,000 人	+19.6%	18.5%	0 人	0 人	皆減	0.0%
アメリカ	600 人	600 人	+20.0%	1.0%	100 人	100 人	-	0.4%
その他	3,700 人	3,600 人	+19.4%	6.2%	10,500 人	0 人	+81.0%	42.3%
合計	59,400 人	59,300 人	+43.8%	100.0%	24,800 人	14,300 人	+29.8%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

8月は、台風の影響により上旬は落ち込んだが、それ以降は好調であったため、前年度を上回った。前年度より拡充した石垣路線およびLCCが押し上げ要因となった。また、テレビ等のメディア露出が多かったことも好調につながったよう。

9月以降は、航空各社・旅行社とも予約状況が好調であり、順調に推移する見込み。予約の早期化等により、直近の9・10月より11月が大きな伸びを見せている。

大阪

8月は、台風および運休・減便等の影響により、関西方面全体の提供座席が減少したため、やや減となった。団体旅行や、那覇経由便を含めた離島方面への旅行は好調であった。

9月以降は、連休中の予約状況も順調であることから、好調に推移する見込み。

福岡

8月は、予約状況は前年度並みであったが、台風の影響や関西などの他地域との競合により、前年同月よりやや減となった。一方で高価格帯商品が好調であった。

9月以降は、福岡ー那覇路線で増便が予定されているが、昨年の九州ブロックPTA研究大会のような特需が今年は期待できないことから、鈍化する見込み。

名古屋

8月は、台風の影響を受けたものの、スカイマークの名古屋ー那覇路線の夏季増便やANAの石垣直行便の好調により、ファミリー層を中心に前年度をやや上回った。

9月以降は、予約状況が良好であることから、引き続き好調に推移する見込み。低価格ツアーの販売により、さらなる入込増が期待出来る。

台湾

8月は、訪日旅行のピークの時期であり、沖縄方面も航空路線の拡充、チャーター便の就航、クルーズ船の寄港回数が増により、空路・海路ともに増加した。

9月は、中華航空の台北ー那覇路線で機材の大型化が予定されており、海路客もクルーズ船の寄港回数が増加し予約状況もよいことから、引き続き好調に推移する見込み。

韓国

8月は、夏の旅行シーズンと航空路線の拡充により、前年度を上回った。学校の夏休み期間ということもあり、家族連れのパッケージ旅行が増加したよう。

9月は、秋夕の連休期間はチャーター便が予定され、旅行商品の販売も好調だが、それ以降はやや落ち込む見込み。10月は、連休やジンエアーの増便、クルーズ船の寄港により空路海路ともに増加が期待出来る。

中国本土・北京

8月は、夏休みの旅行需要で訪日旅行全体が好調であり、沖縄方面についても空路客を中心に増加した。天津航空・中国国際航空ともに高い搭乗率を維持している。

9月は、中秋節の連休以後は旅行需要がやや落ち込む見通し。10月は、国慶節にチャーター便が予定されていることから、空路客の増加が期待できる。

中国本土・上海

8月は、夏休みの旅行需要の高まりと前年度より拡充した航空路線の影響により、空路客が増加した。

9月以降は、中秋節・国慶節の連休による旅行需要と、クルーズ船の寄港による海路客の増加が見込まれることから、前年度を上回る見込み。

香港

8月は、夏場の需要拡大期にあたり、団体客・個人客ともに好調に推移し、前年度を上回った。現地の旅行雑誌で宮古島の特集が組まれるなど、離島への関心も高いよう。

9月以降は、秋の紅葉シーズンに向け、日本の他地域(関西・中部・北海道)に人気が集まるため、沖縄方面はやや鈍化する見通し。

平成26年（2014）9月 入域観光客数概況

9月の観光客数は、65万8,700人
対前年（H25）同月比 +5万1,300人、+8.4%
～外国客が単月の過去最高を更新～

入域状況

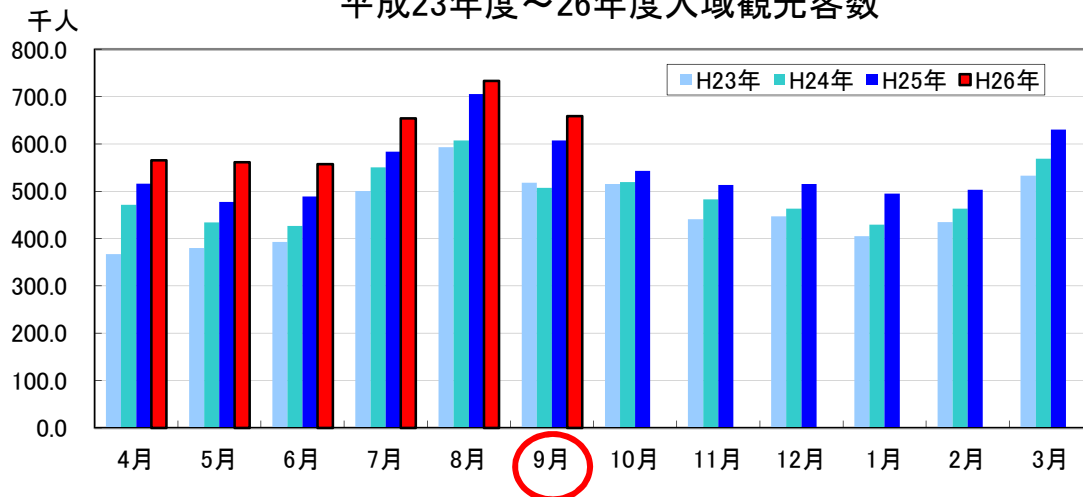
入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	558,800 人	546,200 人	+ 12,600人	+ 2.3%	84.8%
外国客	99,900 人	61,200 人	+ 38,700人	+ 63.2%	15.2%
合計	658,700 人	607,400 人	+ 51,300人	+ 8.4%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	558,800 人	546,200 人	+ 12,600人	+ 2.3%	86.8%
外国客	84,700 人	51,000 人	+ 33,700人	+ 66.1%	13.2%
合計	643,500 人	597,200 人	+ 46,300人	+ 7.8%	100.0%

平成23年度～26年度入域観光客数



国内客 入域状況

9月は、トップシーズン後の需要がやや落ちる時期であり、前年より連休の日並びが悪いこと、本土ー石垣路線が伸び悩んだこと等から微増となった。

10月は、連休中に襲来した台風19号の影響により伸び悩みが懸念されるが、修学旅行など団体旅行が増加する時期でもあるため、前年度並みとなる見込み。

外国客 入域状況

9月は、夏と秋の旅行シーズンの中で訪日旅行が減少する時期であるが、沖縄方面は航空路線の拡充、クルーズ船の寄港増により、空路・海路ともに好調に推移し、単月の過去最高記録を更新した。

10月は、台風19号の影響が懸念されるものの、国慶節など主要方面で連休があるほか、クルーズ船の寄港回数増により、好調に推移する見込み。なお、外国人旅行者の消費税免税対象の拡大も外国客増加に寄与すると予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	285,100 人	276,000 人	+ 9,100人	+ 3.3%	51.0%
関西方面	117,900 人	115,200 人	+ 2,700人	+ 2.3%	21.1%
福岡方面	65,400 人	65,000 人	+ 400人	+ 0.6%	11.7%
名古屋	40,500 人	40,400 人	+ 100人	+ 0.2%	7.2%
その他	49,900 人	49,600 人	+ 300人	+ 0.6%	8.9%
合計	558,800 人	546,200 人	+ 12,600人	+ 2.3%	100.0%

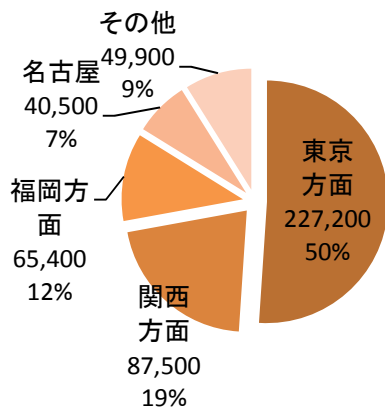
※国内海路客2,300人を含む(鹿児島:2,200人、その他:100人)

外国客 国籍別入域状況

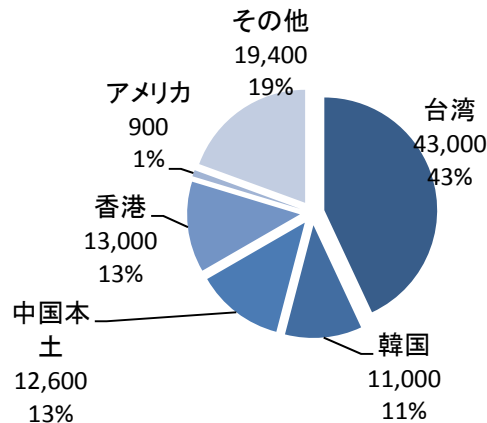
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H26年度	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	43,000 人	43,000 人	32,000 人	+ 11,000人	+34.4%	43.0%
韓国	11,000 人	11,000 人	5,200 人	+ 5,800人	+111.5%	11.0%
中国本土	12,600 人	12,600 人	5,700 人	+ 6,900人	+121.1%	12.6%
香港	13,000 人	13,000 人	7,900 人	+ 5,100人	+64.6%	13.0%
アメリカ	900 人	900 人	500 人	+ 400人	+80.0%	0.9%
その他	19,400 人	4,200 人	9,900 人	+ 9,500人	+96.0%	19.4%
合計	99,900 人	84,700 人	61,200 人	+ 38,700人	+63.2%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	26,700 人	26,700 人	+39.1%	43.1%	16,300 人	16,300 人	+27.3%	42.9%
韓国	10,900 人	10,900 人	+109.6%	17.6%	100 人	100 人	#DIV/0!	0.3%
中国本土	8,400 人	8,400 人	+147.1%	13.6%	4,200 人	4,200 人	+82.6%	11.1%
香港	12,000 人	12,000 人	+53.8%	19.4%	1,000 人	1,000 人	+900.0%	2.6%
アメリカ	700 人	700 人	+40.0%	1.1%	200 人	200 人	#DIV/0!	0.5%
その他	3,200 人	3,200 人	+68.4%	5.2%	16,200 人	1,000 人	+102.5%	42.6%
合計	61,900 人	61,900 人	+62.9%	100.0%	38,000 人	22,800 人	+63.8%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

9月は、上旬と下旬がやや減少したものの、中旬が好調であったことから、前年度を上回った。比較的安価なラストサマー商品やパッケージ商品が人気を集めた。
10月は、修学旅行等の団体旅行が増加する時期であるが、連休中の台風の影響が懸念される。11月・12月および年末年始は好調に推移している。

大阪

9月は、前年度の増加要因であったLCCがやや減少したものの、伊丹ー那覇路線が引き続き好調であり、全体として前年を上回った。離島方面は、石垣島は若干落ち着き、宮古島・久米島が伸びているもよう。
10月は、予約状況は好調であったが、前半の台風19号の影響を受け、前年度並みかやや下回る見込みである。

福岡

9月は、提供座席の減少と東京・関西方面等との競合により、ほぼ前年度並みとなった。
10月は、台風19号の影響と前年の九州ブロックPTA大会特需の反動減が懸念されるが、月末にANA・スカイマークの福岡ー那覇路線の増便が予定されており、今後の入込増が期待できる。

名古屋

9月は、連休の日並びが悪かったことやこの時期のターゲット層である学生等の動きが鈍かったことから、ほぼ前年並みとなった。
10月以降は、台風の影響があるものの、団体旅行やファミリー層を中心に予約が入っており、離島方面も人気であることから、前年度を上回る見込み。年末には久米島・宮古島へのチャーターツアーも企画されている。

台湾

9月は、クルーズ船の寄港回数の増加、中華航空の機材大型化等の航空路線の拡充により、前年度を上回った。
10月は、台風19号の影響があるものの、月全体としては好調に推移する見込み。今年は、中華航空の台北ー那覇路線の冬季減便および台北ー石垣路線の冬季運休が無いため、例年より冬場の落ち込みが小さくなる見込み。

韓国

9月は、空路客を中心に前年度より増加した。秋夕連休中のチャーター便も好調であった。ドラマ等の影響により、沖縄への関心が高まったこともプラス要因となったもよう。
10月は、連休が2回あり、予定されていたクルーズ船は台風の影響でキャンセルとなったが、アジアナ航空の機材大型化(不定期)やジンエアーのチャーター便が予定されており、空路客を中心に好調に推移する見込み。

中国本土・北京

9月は、トップシーズンの7・8月より減少する傾向があるものの、団体旅行が中心となり前年同月を上回った。
10月は、国慶節連休による旅行需要の高まりにより、増加する見込み。大連発のチャーター便も予定されていることから、中国北部からの入り込み増が期待出来る。

中国本土・上海

9月は、中秋節連休により旅行需要が高まったことに加え、航空路線の拡充およびクルーズ船の寄港により、空路・海路ともに増加した。
10月は、国慶節連休により、入込増が期待できる。クルーズ船の寄港や首都航空のチャーター便(杭州ー那覇)の就航が予定されていることから、好調に推移する見込み。

香港

9月は、個人旅行が好調であったほか、クルーズ船の寄港により海路客も大幅に増加したことにより、空路・海路ともに前年を上回った。
10月以降は、マリンスポーツが難しい時期になり、競合先の日本本土が紅葉シーズンとなることからやや鈍化する見込み。また、反政府デモが長期化した場合旅行需要の低下も懸念される。

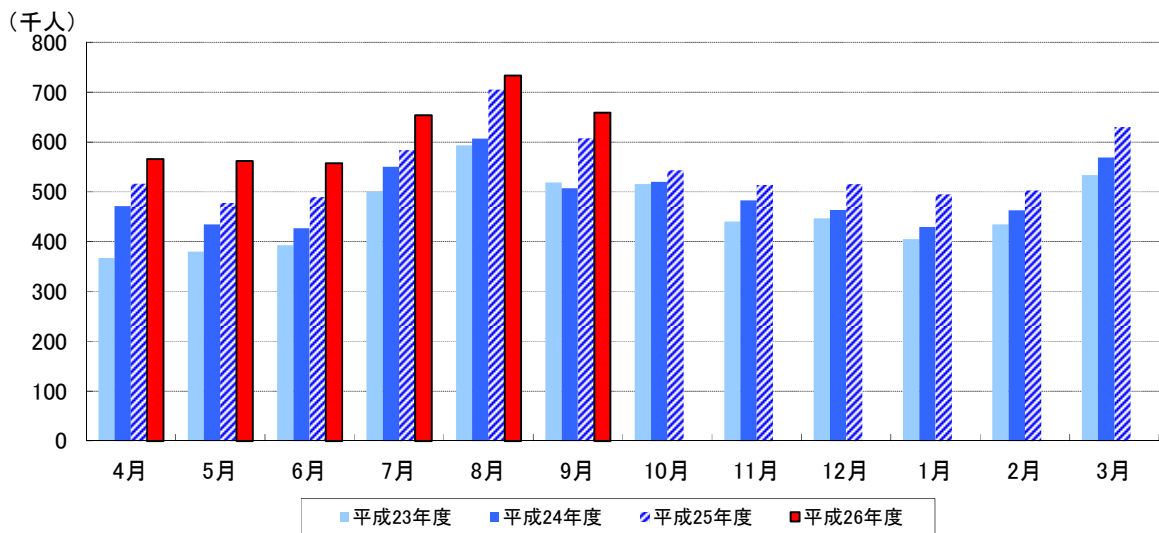
平成 26 年度上半期 沖縄県入域観光客統計概況

文化観光スポーツ部 観光政策課
平成 26 年 10 月発表

平成 26 年度上半期は、373 万 200 人で過去最高を更新
対前年度(H25)比 +35 万 400 人、+10.4%

入域観光客数（国内+外国）

■月別入域観光客数の推移（平成 23 年度～平成 26 年度）



■平成 26 年度上半期入域観光客の状況（平成 25 年度との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
平成26年度	565,600	561,400	557,300	653,900	733,300	658,700	3,730,200
平成25年度	516,300	477,600	489,100	583,900	705,500	607,400	3,379,800
増減数	49,300	83,800	68,200	70,000	27,800	51,300	350,400
増減率	9.5%	17.5%	13.9%	12.0%	3.9%	8.4%	10.4%

■平成 26 年度上半期の概況（総括）

平成 26 年度上半期の入域観光客数は、373 万 200 人となり、対前年同期比で 35 万 400 人増加、率にして 10.4%増となった。月別では、8月に単月の過去最高を更新したほか、5月・6月で初の 50 万人台、7月で初の 60 万人台を記録するなど、9月までに 24 か月連続で対前年同月を上回り、11 か月連続で月の過去最高を上回る客数を記録した。

前年度上半期と比べて増加した要因は、次のとおりと考えられる。

- 官民一体となったプロモーションの効果
- 円安の継続による旅行需要
- 国内・海外航空路線の拡充

国内観光客についての動向

■平成 26 年度上半期国内観光客の状況（平成 25 年度との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
平成26年度	491,700	469,700	461,800	561,600	649,100	558,800	3,192,700
平成25年度	466,400	418,200	426,600	518,700	645,100	546,200	3,021,200
増減数	25,300	51,500	35,200	42,900	4,000	12,600	171,500
増減率	5.4%	12.3%	8.3%	8.3%	0.6%	2.3%	5.7%

■国内観光客の概況

国内の旅行市場全体の傾向として、前年度から円安が継続しており、割高感のある海外旅行から国内旅行へ需要がシフトしていることに加え、沖縄発着航空路線が拡充したこと、沖縄方面への旅行人気の継続などが入込増加の要因とみられ、各方面とも堅調に推移している。

下半期は、10月の台風18号・19号の影響が懸念されるものの、景気は緩やかな回復基調にあり、円安傾向が継続するとみられることから、沖縄への入込は今後も好調に推移することが期待できる。

外国人観光客についての動向

■平成 26 年度上半期外国人観光客の状況（平成 25 年度との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
平成26年度	73,900	91,700	95,500	92,300	84,200	99,900	537,500
平成25年度	49,900	59,400	62,500	65,200	60,400	61,200	358,600
増減数	24,000	32,300	33,000	27,100	23,800	38,700	178,900
増減率	48.1%	54.4%	52.8%	41.6%	39.4%	63.2%	49.9%

■外国人観光客の概況

円安により割安感のある訪日旅行人気が続いていることに加え、沖縄発着航空路線が拡充したこと（台北-那覇・上海-那覇路線の増便、高雄-那覇・天津-那覇路線の新規就航）、クルーズ船寄港回数が増加したことなどが沖縄への入込増加の要因とみられ、5月には初の9万人台を記録し、5・6・9月で単月の過去最高を更新した。方面別では、前年度後半から尖閣諸島関係の影響より回復してきた中国の伸びが目立つ。

下半期は、複数の航空会社のソウル-那覇路線の新規就航が予定されていること、また台湾-沖縄路線では、冬季運休・減便が昨年度より少なく冬場の落ち込みが小さくなると予想されることなどから、前年度以上の入込が期待できる。

平成26年（2014）10月 入域観光客数概況

10月の観光客数は、58万6,000人
対前年（H25）同月比 +4万3,000人、+7.9%
～外国客は早くも昨年度実績を上回る～

入域状況

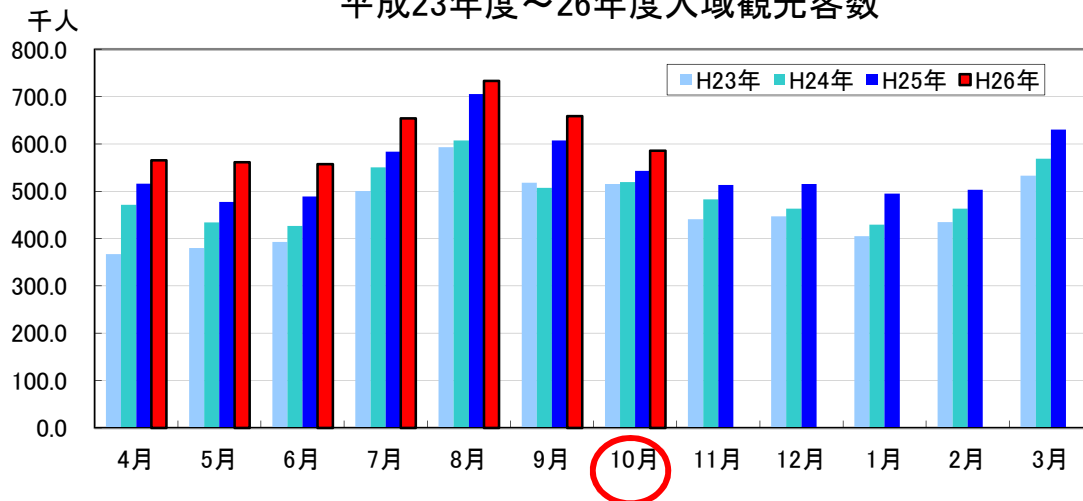
入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	492,200 人	485,200 人	+ 7,000人	+ 1.4%	84.0%
外国客	93,800 人	57,800 人	+ 36,000人	+ 62.3%	16.0%
合計	586,000 人	543,000 人	+ 43,000人	+ 7.9%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	492,200 人	485,200 人	+ 7,000人	+ 1.4%	85.8%
外国客	81,500 人	49,200 人	+ 32,300人	+ 65.7%	14.2%
合計	573,700 人	534,400 人	+ 39,300人	+ 7.4%	100.0%

平成23年度～26年度入域観光客数



国内客 入域状況

10月は、2週連続の台風来襲により航空便の欠航およびキャンセルが発生し、月前半は大きく落ち込んだものの、後半は好調に推移し前年度を上回った。

11月は、ボトム期となり、夏場に比べやや鈍化するものの、各方面ともに堅調に推移する見込み。国内クルーズ船の寄港が予定されており、海路客の増加が期待出来る。

外国客 入域状況

10月は、台風の影響を受けたものの、国慶節など主要方面で連休があり、空路海路ともに好調に推移した。4月から今月までの累計で早くも前年度の年間客数を上回った。

11月以降は、冬場のオフシーズンとなる台湾・中国・香港がやや鈍化するが、増便やLCC2社の新規就航により、ソウルー那覇路線が大幅に拡充する韓国を中心に増加する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	256,200 人	252,400 人	+ 3,800人	+ 1.5%	52.1%
関西方面	94,200 人	90,000 人	+ 4,200人	+ 4.7%	19.1%
福岡方面	57,400 人	57,100 人	+ 300人	+ 0.5%	11.7%
名古屋	37,300 人	36,900 人	+ 400人	+ 1.1%	7.6%
その他	47,100 人	48,800 人	△ 1,700人	△ 3.5%	9.6%
合計	492,200 人	485,200 人	+ 7,000人	+ 1.4%	100.0%

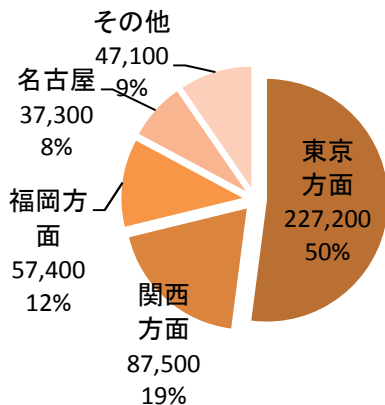
※国内海路客1,400人を含む(鹿児島:1,400人)

外国客 国籍別入域状況

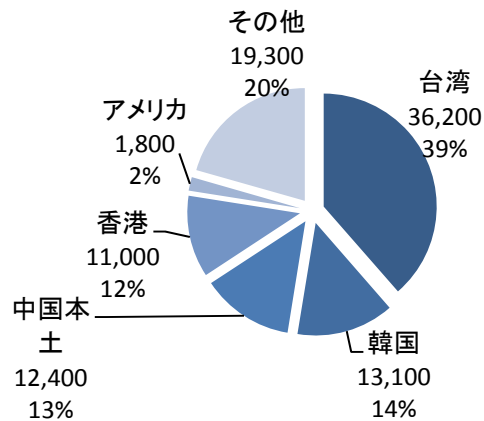
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H26年度	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	36,200 人	36,200 人	25,600 人	+ 10,600人	+41.4%	38.6%
韓国	13,100 人	13,100 人	4,900 人	+ 8,200人	+167.3%	14.0%
中国本土	12,400 人	12,400 人	5,100 人	+ 7,300人	+143.1%	13.2%
香港	11,000 人	11,000 人	7,400 人	+ 3,600人	+48.6%	11.7%
アメリカ	1,800 人	1,800 人	900 人	+ 900人	+100.0%	1.9%
その他	19,300 人	7,000 人	13,900 人	+ 5,400人	+38.8%	20.6%
合計	93,800 人	81,500 人	57,800 人	+ 36,000人	+62.3%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	25,200 人	25,200 人	+40.8%	41.0%	11,000 人	11,000 人	+42.9%	34.0%
韓国	13,100 人	13,100 人	+167.3%	21.3%	0 人	0 人	-	0.0%
中国本土	8,100 人	8,100 人	+145.5%	13.2%	4,300 人	4,300 人	+138.9%	13.3%
香港	10,500 人	10,500 人	+41.9%	17.1%	500 人	500 人	皆増	1.5%
アメリカ	800 人	800 人	+60.0%	1.3%	1,000 人	1,000 人	+150.0%	3.1%
その他	3,700 人	3,700 人	+12.1%	6.0%	15,600 人	3,300 人	+47.2%	48.1%
合計	61,400 人	61,400 人	+64.6%	100.0%	32,400 人	20,100 人	+58.0%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

10月は、台風18・19号の影響を受けたものの、下旬に盛り返し前年度を上回った。今年度は運休期間が無かったLCCが押し上げ要因となった。

11月は、修学旅行など団体旅行を中心に概ね好調に推移する見込み。10月下旬からのスカイマーク・JALの成田ー那覇路線の運休により成田からの入込は減少すると予想される。

大阪

10月は、予約状況は好調であったが、台風の影響でキャンセルが相次ぎ伸び悩んだ。引き続き伊丹ー那覇路線が好調であるが、提供座席は増加したものの搭乗率は前年度に比べやや低下しているため、さらなる需要喚起が必要である。

11月以降は、沖縄本島・離島方面ともに好調に推移する見込み。

福岡

10月は、台風の影響と前年度の九州ブロックPTA大会特需の反動減があったが、低価格帯商品やピーチアビエーションの福岡ー那覇路線が好調であり、ほぼ前年度並みとなった。

11月以降は、ANA・スカイマークの増便などにより前年度を上回る見込み。既存の競合地に加え、鉄道会社のキャンペーンにより、九州域内が新たな競合先となりつつある。

名古屋

10月は、2週連続で来襲した台風の影響を受け大幅に落ち込んだものの、パッケージ商品や団体旅行および名古屋ー石垣路線が好調であったことから、微増となった。

11月以降は、本島やパッケージツアーを中心に堅調に推移する見込み。

台湾

10月は、台風の影響でクルーズ船の寄港キャンセルや航空便の欠航が生じたが、月全体としては空路・海路ともに好調に推移した。

11月は、スタークルーズの運航が無いいため海路客が減少するものの、今年度は中華航空の台北ー那覇の冬季減便および台北ー石垣路線の運休が無いことから、前年度を上回る見込み。

韓国

10月は、建国記念日・ハングルの日の公休により旅行需要が旺盛であり、アジアナ航空の機材大型化(不定期)、ジンエアーのチャーター便や下旬からの増便により、空路客が増加した。

11月以降は、冬場のゴルフなどの需要が高まるほか、チェジュ航空・ティーウェイ航空の新規就航によりソウルー那覇路線が拡充することから、さらなる入込増が期待出来る。

中国本土・北京

10月は、国慶節連休による旅行需要の高まりに加え、天津航空の運航や連休中の大連発チャーターにより、前年度を上回った。

11月は、APEC開催により政府機関や学校等が公休(7~12日)となる北京からの入込が一時的に増加するものの、オフシーズンとなるため、全体としては夏場に比べ落ち込む見込み。

中国本土・上海

10月は、国慶節の大型連休があり、前年度より拡充した航空路線やクルーズ船の寄港により、空路海路ともに好調に推移した。

11月以降は、オフシーズンとなるが、10月末からの首都航空の杭州ー那覇チャーター便の新規就航により、空路客が増加する見込み。

香港

10月は、夏季に比べ団体・個人ともに需要が縮小しているものの、空路客を中心に前年同月を上回った。クルーズ船の寄港により海路客も増加した。

11月以降は、訪日旅行はUSJや紅葉ツアー等により関西方面の人气が高くなるため、沖縄方面は苦戦するが、前年度より拡充した空路を中心に増加する見込み。

平成26年（2014）11月 入域観光客数概況

11月の観光客数は、56万4,500人
対前年（H25）同月比 +5万900人、+9.9%
～11月時点で歴年の過去最高記録を上回る～

入域状況

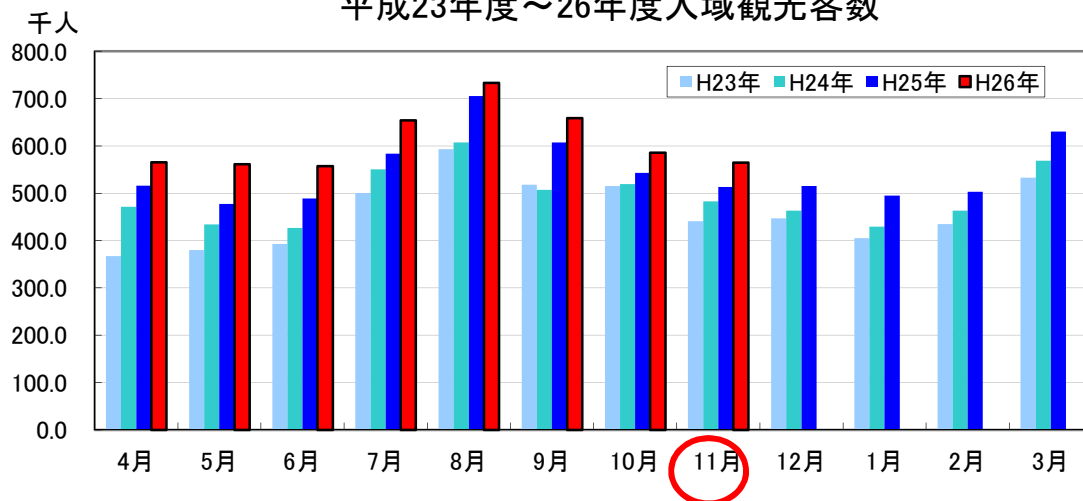
入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	508,100 人	480,100 人	+ 28,000人	+ 5.8%	90.0%
外国客	56,400 人	33,500 人	+ 22,900人	+ 68.4%	10.0%
合計	564,500 人	513,600 人	+ 50,900人	+ 9.9%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	508,100 人	480,100 人	+ 28,000人	+ 5.8%	90.2%
外国客	54,900 人	31,600 人	+ 23,300人	+ 73.7%	9.8%
合計	563,000 人	511,700 人	+ 51,300人	+ 10.0%	100.0%

平成23年度～26年度入域観光客数



国内客 入域状況

11月は、日並びがよく、各方面とも前年度を上回った。国内クルーズ船の寄港により、海路客が大幅に増加した。

12月は、円安と日並びの影響により年末年始の国内旅行需要は堅調であり、他地域との競合はあるが沖縄方面の人気も継続していることから、前年度並みとなる見込み。

外国客 入域状況

11月は、ソウルー那覇路線が大幅に拡充した韓国を中心に好調に推移した。欧米系クルーズ船の寄港により、アメリカ・カナダからの入込も増加した。

12月は、チェジュ航空・ティーウェイ航空がソウルー那覇路線に新規就航することから、引き続き韓国からの入込が増加する見込み。クルーズ船の寄港が無いいため、海路客は減少すると予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	249,200 人	239,500 人	+ 9,700人	+ 4.1%	49.0%
関西方面	94,800 人	85,700 人	+ 9,100人	+ 10.6%	18.7%
福岡方面	66,600 人	63,800 人	+ 2,800人	+ 4.4%	13.1%
名古屋	40,800 人	39,100 人	+ 1,700人	+ 4.3%	8.0%
その他	56,700 人	52,000 人	+ 4,700人	+ 9.0%	11.2%
合計	508,100 人	480,100 人	+ 28,000人	+ 5.8%	100.0%

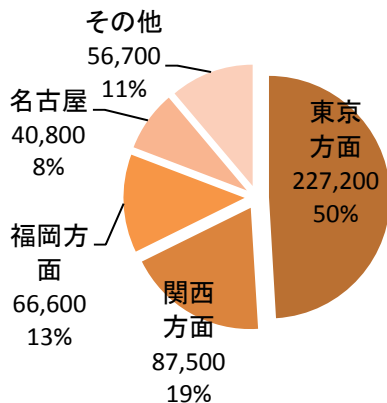
※国内海路客5,900人を含む(東京100人、神戸100人、名古屋1,000人、鹿児島4,000人、その他700人)

外国客 国籍別入域状況

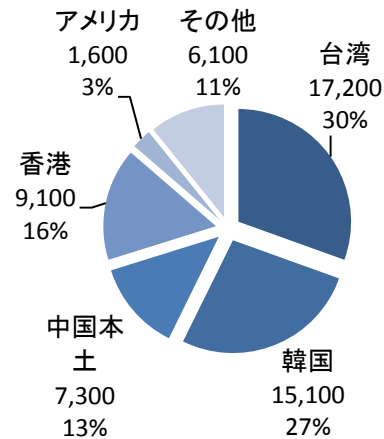
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H26年度	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	17,200 人	17,200 人	9,600 人	+ 7,600人	+79.2%	30.5%
韓国	15,100 人	15,100 人	6,800 人	+ 8,300人	+122.1%	26.8%
中国本土	7,300 人	7,300 人	5,100 人	+ 2,200人	+43.1%	12.9%
香港	9,100 人	9,100 人	7,000 人	+ 2,100人	+30.0%	16.1%
アメリカ	1,600 人	1,600 人	600 人	+ 1,000人	+166.7%	2.8%
その他	6,100 人	4,600 人	4,400 人	+ 1,700人	+38.6%	10.8%
合計	56,400 人	54,900 人	33,500 人	+ 22,900人	+68.4%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	17,200 人	17,200 人	+79.2%	32.7%	0 人	0 人	-	0.0%
韓国	14,600 人	14,600 人	+117.9%	27.8%	500 人	500 人	+400.0%	13.2%
中国本土	7,300 人	7,300 人	+180.8%	13.9%	0 人	0 人	皆減	0.0%
香港	9,100 人	9,100 人	+30.0%	17.3%	0 人	0 人	-	0.0%
アメリカ	900 人	900 人	+50.0%	1.7%	700 人	700 人	皆増	18.4%
その他	3,500 人	3,400 人	+12.9%	6.7%	2,600 人	1,200 人	+100.0%	68.4%
合計	52,600 人	52,500 人	+77.7%	100.0%	3,800 人	2,400 人	△2.6%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

11月は、修学旅行やMICEなど団体旅行が多く、人気アーティストのコンサート等の誘客効果もあり、前年度を上回った。

12月は、年末年始の大晦日と元旦以外の期間にやや鈍化がみられるが、上旬に那覇マラソンがあること、修学旅行等の団体旅行の予約状況が順調であることから、前年度並みとなる見込み。

大阪

11月は、引き続き伊丹－那覇路線が好調であることに加え、LCCや低価格商品も押し上げ要因となり、前年同月より増加した。

12月以降は、個人旅行を中心に増加、離島方面(石垣・宮古)も那覇経由便を含め好調に推移する見込み。年末年始は日並びの影響で昨年よりは需要が低いと見込まれる。

福岡

11月は、前年のスポーツ大会の反動減と関東・関西地区との競合があるものの、個人旅行が好調であり前年度を上回った。

12月以降は、年末年始の旅行需要に加え、スポーツ大会等があることから、個人・団体共に好調に推移する見込み。

名古屋

11月は、団体・個人旅行ともに好調であり、安価なパッケージツアーも人気があったことから、前年度を上回った。

12月以降は、離島方面(石垣・宮古)は好調であるが、本島方面と個人客の動きが鈍く前年度並みとなる見込み。年末年始は国内他地域との競合で苦戦している。

台湾

11月は、スタークルーズの運航終了により海路からの入込は無かったが、前年同月より航空路線が拡充していることから増加した。

12月は、中華航空の石垣－台北路線が運休したことによりやや鈍化するものの、那覇マラソンの誘客効果もあり、引き続き好調に推移する見込み。旧正月チャーター便が複数予定されている。

韓国

11月は、ジンエアーとアジアナ航空の増便により、昨年同月に比べソウル－那覇路線が拡充したことに加え(週14便→週25便)、クルーズ船の寄港があり、空路・海路ともに増加した。

12月以降は、ゴルフなど冬場の旅行シーズンであり、チェジュ航空・ティーウェイ航空が新規就航することから、引き続き好調に推移する見込み。

中国本土・北京

11月は、例年国慶節(10月)後の旅行需要が落ち込む時期であるが、航空路線が前年より拡充していることにより空路客が増加した。

12月以降は、暖かい東南アジアやハワイ等が人気のため、沖縄方面は鈍化する見込み。

中国本土・上海

11月は、ボトム期となり伸びがやや鈍化したが、首都航空の杭州－那覇路線新規就航(1年間チャーター)により空路客を中心に増加した。今年はクルーズ船の寄港が無かったため、海路客は皆減となった。

12月以降は、2月の旧正月時期には入込増が期待できるが、全体としては夏場に比べ落ち込む見込み。

香港

11月は、冬シーズンに入り需要が縮小し、団体旅行は少し落ち着いたものの、香港航空のキャンペーンもあり、個人旅行は好調に推移し、前年度を上回った。

12月以降は、クリスマス休みがあることから団体・個人旅行ともに販売状況が順調であり、2月にはピーチアビエーションの新規就航が予定されており、今後の入込増が期待出来る。

平成26年（2014）12月 入域観光客数概況

12月の観光客数は、54万9,200人
対前年（H25）同月比 +3万3,700人、+6.5%
～歴年の過去最高記録を更新、初の700万人台～

入域状況

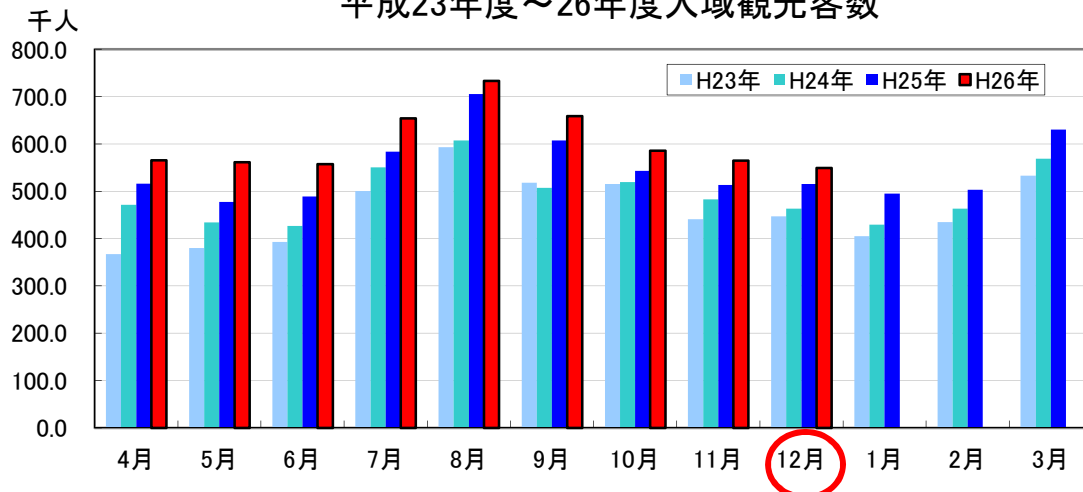
入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	484,500 人	479,300 人	+ 5,200人	+ 1.1%	88.2%
外国客	64,700 人	36,200 人	+ 28,500人	+ 78.7%	11.8%
合計	549,200 人	515,500 人	+ 33,700人	+ 6.5%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	484,500 人	479,300 人	+ 5,200人	+ 1.1%	88.3%
外国客	64,200 人	33,500 人	+ 30,700人	+ 91.6%	11.7%
合計	548,700 人	512,800 人	+ 35,900人	+ 7.0%	100.0%

平成23年度～26年度入域観光客数



国内客 入域状況

12月は、上旬・中旬は好調に推移したが、日並び等の影響により年末年始はやや減となったことなどから下旬は少し落ち込み、前年度並みとなった。

1月以降は、冬場のため落ち着く傾向にあるものの、スカイマークの札幌－那覇路線の新規就航があることから、主要方面以外からの入込増が期待できる。

外国客 入域状況

12月は、LCC2社が新規就航しソウル－那覇路線が拡充したため、韓国からの入込が大幅に増加した。クルーズ船の寄港が無いとため、海路客は減少した。

1月以降は、今年度航空路線が大幅に拡充した韓国と2月からピーチアビエーションが新規就航する香港を中心に増加する見込み。旧正月は、主要方面でチャーターが予定されている。

国内客 地域別入域状況

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	240,200 人	244,100 人	△ 3,900人	△ 1.6%	49.6%
関西方面	93,800 人	88,100 人	+ 5,700人	+ 6.5%	19.4%
福岡方面	60,800 人	58,100 人	+ 2,700人	+ 4.6%	12.5%
名古屋	38,400 人	38,500 人	△ 100人	△ 0.3%	7.9%
その他	51,300 人	50,500 人	+ 800人	+ 1.6%	10.6%
合計	484,500 人	479,300 人	+ 5,200人	+ 1.1%	100.0%

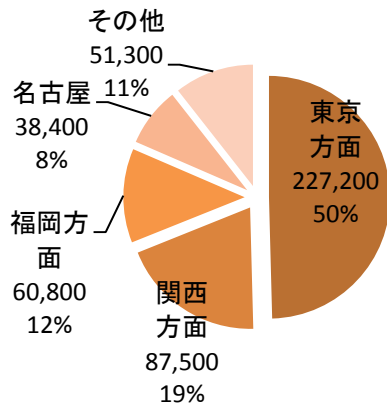
※国内海路客2,400人を含む(東京100人、関西100人、鹿児島2,200人)

外国客 国籍別入域状況

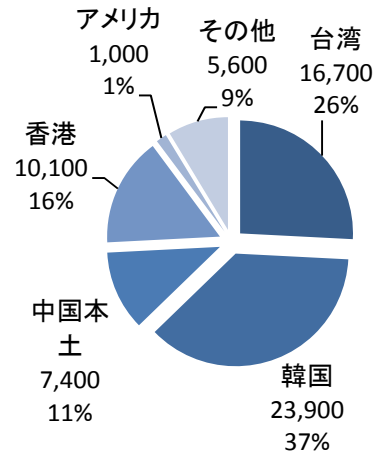
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H26年度	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	16,700 人	16,700 人	7,400 人	+ 9,300人	+125.7%	25.8%
韓国	23,900 人	23,900 人	9,800 人	+ 14,100人	+143.9%	36.9%
中国本土	7,400 人	7,400 人	6,300 人	+ 1,100人	+17.5%	11.4%
香港	10,100 人	10,100 人	6,400 人	+ 3,700人	+57.8%	15.6%
アメリカ	1,000 人	1,000 人	600 人	+ 400人	+66.7%	1.5%
その他	5,600 人	5,100 人	5,700 人	△ 100人	△1.8%	8.7%
合計	64,700 人	64,200 人	36,200 人	+ 28,500人	+78.7%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	16,700 人	16,700 人	+125.7%	26.0%	0 人	0 人	-	0.0%
韓国	23,900 人	23,900 人	+146.4%	37.2%	0 人	0 人	皆減	0.0%
中国本土	7,400 人	7,400 人	+184.6%	11.5%	0 人	0 人	皆減	0.0%
香港	10,100 人	10,100 人	+57.8%	15.7%	0 人	0 人	-	0.0%
アメリカ	1,000 人	1,000 人	+66.7%	1.6%	0 人	0 人	-	0.0%
その他	5,100 人	5,100 人	+41.7%	7.9%	500 人	0 人	△76.2%	100.0%
合計	64,200 人	64,200 人	+111.9%	100.0%	500 人	0 人	△91.5%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

12月は、羽田からの入込は前年度並みであったが、成田からの入込は運休等により減少した。年末年始に近場の観光地を好む傾向があり、前年度を下回った。

1月以降は、年末年始の反動もあり、鈍化する見込み。団体旅行の予約状況が比較的好調に推移している。

大阪

12月は、下旬がやや鈍化したものの、月全体を通じて好調に推移し、前年度を上回った。特に関西－石垣路線が好調であった。

1月以降は、前年度並みとなる見込み。旅行会社では、低価格帯商品の販売で底上げを図る動きがある。

福岡

12月は、那覇マラソンの特需やピーチアビエーションの福岡－那覇路線が引き続き好調であったことから、前年同月を上回った。

1月以降は、個人・団体ともに好調に推移する見込み。スポーツ大会の団体特需や建設業界を中心としたビジネス需要に加え、慰安旅行・報奨旅行も好調のもよう。

名古屋

12月は、旅客の動向が鈍く、航空会社によって業績にばらつきがあったが、修学旅行者や直前の予約による底上げ、宮古・久米島へのチャーター便の運航により、ほぼ前年度並みとなった。

1月は、個人客の予約状況が良いことから、前年同月を上回る見込み。2・3月は、中部地方の市場全体で安近短な観光地が人気であり、鈍化する見込み。

台湾

12月は、冬シーズンや北海道など他地域との競合の影響があるものの、那覇マラソン等の誘客効果や航空路線拡充により、前年同月を上回った。

1月以降は、旅行会社の予約状況は不調であるが、旧正月に台北－那覇、台北－石垣間でチャーター便や機材大型化が予定されており、入込増が期待出来る。

韓国

12月は、チェジュ航空とティーウェイ航空の新規就航によりソウルー那覇路線が拡充したことに加え、就航キャンペーン等の誘客効果もあり、大幅に増加した。

1月は、冬休みの旅行需要に加え、宮古島へのゴルフチャーター便などゴルフ需要や免税制度拡大によるショッピング需要も影響し、引き続き好調に推移する見込み。

中国本土・北京

12月は、ボトム期にあたり伸びが鈍化したものの、前年度より航空路線が拡充していることから前年同月を上回った。

1月以降は、冬季シーズンのため多少伸びが落ち着くものの、1月正月と2月春節の連休を中心に入込が増加する見込み。西安－沖縄チャーターの就航が計画されている。

中国本土・上海

12月は、ボトム期に入り落ち着きつつあるものの、航空路線拡充の影響により増加した。今年はクルーズ船の寄港が無かったため、海路客は皆減となった。

1月以降は、引き続き夏場に比べ鈍化する時期だが、正月・春節の連休およびマルチビザ緩和の効果により増加が期待出来る。

香港

12月は、冬場シーズンで需要が縮小しているが、円安で訪日旅行が好調を維持していることもあり、前年同月を上回った。

1月以降は、日本国内の他地域との競合があるものの、ピーチアビエーションの新規就航や旧正月などで需要は拡大する見込み。現地の旅行社では、離島やスポーツ観光など新たな旅行商品が開発されている。

平成27年（2015）1月 入域観光客数概況

1月の観光客数は、53万100人
対前年（H26）同月比 +3万5,000人、+7.1%
～1月の過去最高を記録、初の50万人台～

入域状況

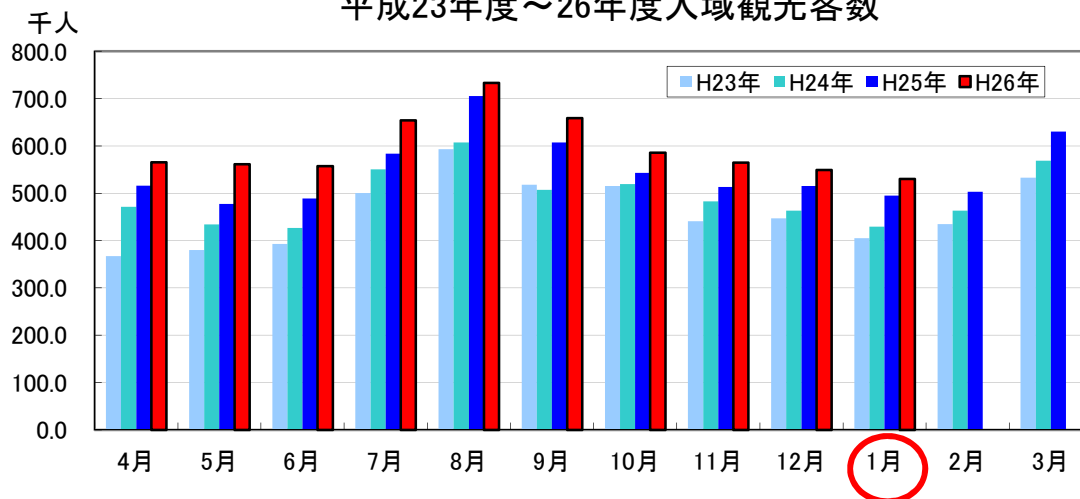
入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	462,200 人	447,000 人	+ 15,200人	+ 3.4%	87.2%
外国客	67,900 人	48,100 人	+ 19,800人	+ 41.2%	12.8%
合計	530,100 人	495,100 人	+ 35,000人	+ 7.1%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	462,200 人	447,000 人	+ 15,200人	+ 3.4%	87.3%
外国客	67,500 人	44,500 人	+ 23,000人	+ 51.7%	12.7%
合計	529,700 人	491,500 人	+ 38,200人	+ 7.8%	100.0%

平成23年度～26年度入域観光客数



国内客 入域状況

1月は、上旬が年末年始・連休の旅行需要で好調であったことに加え、旅行会社主催のイベントや桜まつり等もあり、前年度を上回った。

2月は、例年オフシーズンのため鈍化傾向にあるが、プロ野球キャンプや伊良部大橋開通等の誘客効果により、増加する見込み。スカイマークの減便の影響がやや懸念される。

外国客 入域状況

1月は、単月で初めて3万人を超えた韓国を中心に増加した。中国方面は、クルーズ船の寄港が無かったことから海路客が皆減となり、前年を下回った。

2月は、主要方面が春節（旧正月）を迎え旅行需要が高まること、またクルーズ船の寄港やピーチアビエーションの香港－那覇路線の新規就航も予定されていることから、空路・海路ともに増加する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	226,100 人	226,700 人	△ 600人	△ 0.3%	48.9%
関西方面	89,500 人	81,400 人	+ 8,100人	+ 10.0%	19.4%
福岡方面	61,100 人	55,200 人	+ 5,900人	+ 10.7%	13.2%
名古屋	36,200 人	35,700 人	+ 500人	+ 1.4%	7.8%
その他	49,300 人	48,000 人	+ 1,300人	+ 2.7%	10.7%
合計	462,200 人	447,000 人	+ 15,200人	+ 3.4%	100.0%

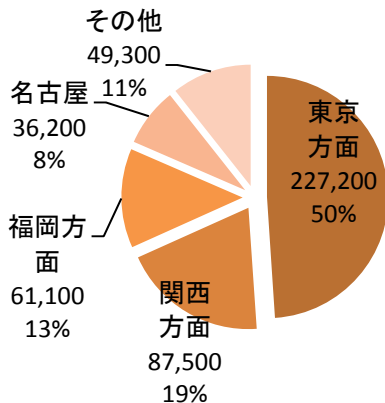
※国内海路客2,900人を含む(鹿児島2,400人、その他500人)

外国客 国籍別入域状況

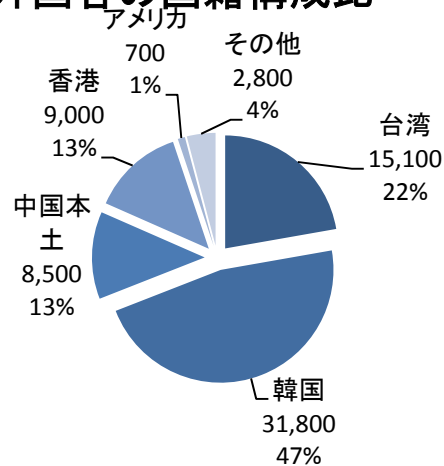
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H26年度	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	15,100 人	15,100 人	11,200 人	+ 3,900人	+34.8%	22.2%
韓国	31,800 人	31,800 人	15,000 人	+ 16,800人	+112.0%	46.8%
中国本土	8,500 人	8,500 人	11,500 人	△ 3,000人	△26.1%	12.5%
香港	9,000 人	9,000 人	5,200 人	+ 3,800人	+73.1%	13.3%
アメリカ	700 人	700 人	500 人	+ 200人	+40.0%	1.0%
その他	2,800 人	2,400 人	4,700 人	△ 1,900人	△40.4%	4.1%
合計	67,900 人	67,500 人	48,100 人	+ 19,800人	+41.2%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	15,100 人	15,100 人	+34.8%	22.4%	0 人	0 人	-	0.0%
韓国	31,800 人	31,800 人	+113.4%	47.3%	0 人	0 人	皆減	0.0%
中国本土	8,500 人	8,500 人	+123.7%	12.6%	0 人	0 人	皆減	0.0%
香港	9,000 人	9,000 人	+73.1%	13.4%	0 人	0 人	-	0.0%
アメリカ	700 人	700 人	+40.0%	1.0%	0 人	0 人	-	0.0%
その他	2,200 人	2,200 人	+10.0%	3.3%	600 人	200 人	△77.8%	100.0%
合計	67,300 人	67,300 人	+79.0%	100.0%	600 人	200 人	△94.3%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

1月は、羽田からの入込は増加したものの、JAL・スカイマークの運休やLCCがほぼ前年度並みとなったことにより、成田からの入込が減少し、前年度並みとなった。
2月以降は、他地域との競合により予約状況がやや鈍化しているが、プロ野球キャンプ見学・卒業旅行等の需要による入込が期待出来る。

大阪

1月は、提供座席が増加した伊丹－那覇路線及びLCCが好調であったことや、直前での予約が増えたことも押し上げ要因となり、前年度を上回った。
2月以降は、予約状況が好調に推移していることから、増加する見込み。スカイマークの神戸－那覇路線で減便が予定されており、影響を注視する必要がある。

福岡

1月は、期間全体を通じ好調に推移し、前年度を上回った。パッケージ商品やスポーツ大会等による団体需要が好調であった。
2月以降は、福岡－那覇路線でスカイマークの減便(4→2便/日)が予定されているが、他社の増便等により前年並みの提供座席は確保される見込み。

名古屋

1月は、一部航空会社は不調であったものの、旅行商品の初売りセール等の誘客効果もあり、前年同月より増加した。
2月以降は、スカイマークの名古屋－那覇路線の減便(2→1便/日)による影響が懸念されるものの、春休み等の旅行需要により入込は前年度並みを維持する見込み。

台湾

1月は、冬のオフシーズンとなり夏場に比べ鈍化するが、航空路線拡充の影響により、空路客が増加し、前年度を上回った。
2月は、春節の時期に台北－那覇・台北－石垣間のチャーター便や機材の大型化が予定されていることから、好調に推移する見込み。

韓国

1月は、冬休みに加え、ゴルフやインセンティブ旅行等の需要もあり、前年度を上回った。単月で初の3万人台を記録した。LCC2社の新規就航が需要喚起にも寄与しているもよう。
2月は、冬季の旅行需要と航空路線の拡充を背景に引き続き好調に推移する見込み。旧正月に予定されている宮古・石垣チャーター便もほぼ満席となっている。

中国本土・北京

1月は、尖閣諸島関連の反動と春節の影響により大幅増となった前年同月を下回った。
2月は、春節と消費税免税対象の拡大によるショッピング需要等により、好調に推移する見込み。首都航空の西安－那覇チャーターが就航することから、中国内陸部からの入込増が期待出来る。

中国本土・上海

1月は、空路客は増加したが、クルーズ船の寄港が無く海路客が皆減となったため、前年度より減少した。
2月は、春節の旅行需要に加え、クルーズ船の寄港が予定されていることから、空路・海路ともに増加する見込み。春節時期には、チャーター便(福州－那覇)が予定されている。

香港

1月は、2月の春節前で団体・個人旅行ともに需要が落ち着いたものの、沖縄方面を含め訪日旅行が好調であることから、前年同月を上回った。
2月以降は、ピーチアビエーションの香港－那覇路線の新規就航が予定されていることから、空路客を中心に増加する見込み。LCCの就航により、新たな客層の獲得も期待出来る。

平成27年（2015）2月 入域観光客数概況

2月の観光客数は、55万900人
対前年（H26）同月比 +4万7,800人、+9.5%
～外国客が大幅に増加、中国客初の単月2万人超～

入域状況

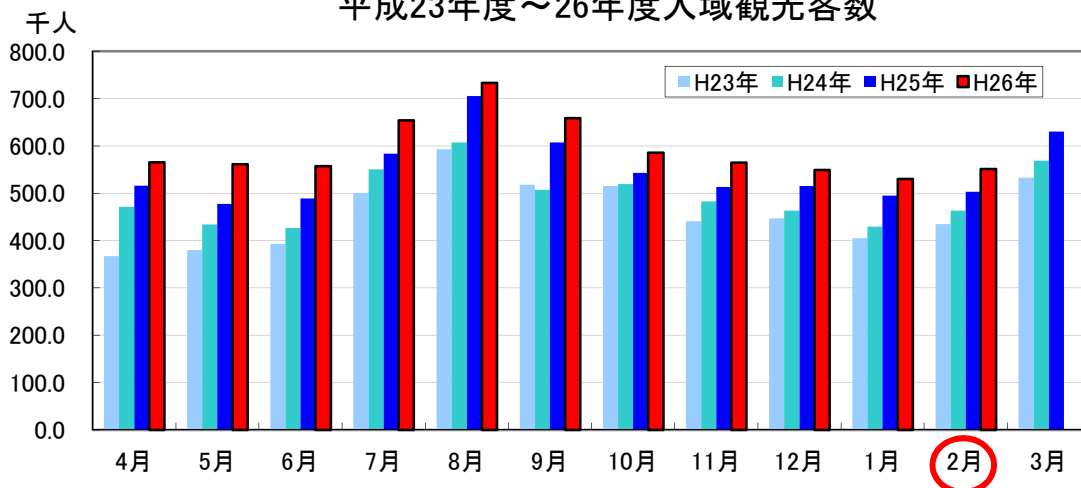
入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	464,200 人	458,800 人	+ 5,400人	+ 1.2%	84.3%
外国客	86,700 人	44,300 人	+ 42,400人	+ 95.7%	15.7%
合計	550,900 人	503,100 人	+ 47,800人	+ 9.5%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	464,200 人	458,800 人	+ 5,400人	+ 1.2%	84.9%
外国客	82,400 人	41,300 人	+ 41,100人	+ 99.5%	15.1%
合計	546,600 人	500,100 人	+ 46,500人	+ 9.3%	100.0%

平成23年度～26年度入域観光客数



国内客 入域状況

2月は、大雪に伴う航空便欠航のあった前年同月に比べ天候の影響が小さく、プロ野球等の誘客効果もあったものの、スカイマークの運休の影響により、微増となった。離島方面が好調であった。

3月以降は、引き続きスカイマークの運休の影響が懸念されるものの、春休みの旅行需要により、好調に推移する見込み。

外国客 入域状況

2月は、春節・旧正月の旅行需要と日並びの影響により、主要方面からの入込が増加した。特に中国の伸びが大きく、単月初の2万人台を記録した。クルーズ船の寄港により、海路客も増加した。

3月以降は、航空路線の拡充およびクルーズ船の寄港回数の増により、好調に推移する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	225,600 人	227,200 人	△ 1,600人	△ 0.7%	48.6%
関西方面	91,100 人	87,500 人	+ 3,600人	+ 4.1%	19.6%
福岡方面	59,900 人	56,900 人	+ 3,000人	+ 5.3%	12.9%
名古屋	37,400 人	38,900 人	△ 1,500人	△ 3.9%	8.1%
その他	50,200 人	48,300 人	+ 1,900人	+ 3.9%	10.8%
合計	464,200 人	458,800 人	+ 5,400人	+ 1.2%	100.0%

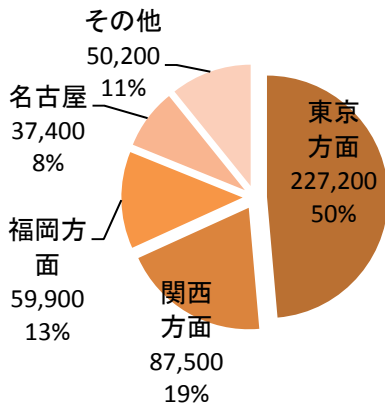
※国内海路客1,900人を含む(鹿児島1,500人、関西100人、横浜300人)

外国客 国籍別入域状況

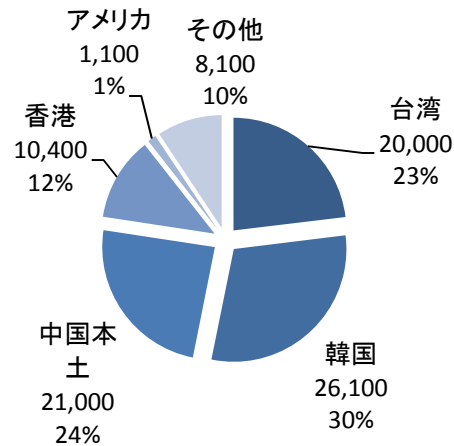
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H26年度	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	20,000 人	20,000 人	12,900 人	+ 7,100人	+55.0%	23.1%
韓国	26,100 人	26,100 人	15,300 人	+ 10,800人	+70.6%	30.1%
中国本土	21,000 人	21,000 人	3,500 人	+ 17,500人	+500.0%	24.2%
香港	10,400 人	10,400 人	5,900 人	+ 4,500人	+76.3%	12.0%
アメリカ	1,100 人	1,100 人	1,600 人	△ 500人	△31.3%	1.3%
その他	8,100 人	3,800 人	5,100 人	+ 3,000人	+58.8%	9.3%
合計	86,700 人	82,400 人	44,300 人	+ 42,400人	+95.7%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	20,000 人	20,000 人	+55.0%	26.8%	0 人	0 人	-	0.0%
韓国	26,100 人	26,100 人	+70.6%	35.0%	0 人	0 人	-	0.0%
中国本土	14,700 人	14,700 人	+320.0%	19.7%	6,300 人	6,300 人	皆増	51.6%
香港	10,200 人	10,200 人	+72.9%	13.7%	200 人	200 人	皆増	1.6%
アメリカ	800 人	800 人	+100.0%	1.1%	300 人	300 人	△75.0%	2.5%
その他	2,700 人	2,700 人	+68.8%	3.6%	5,400 人	1,100 人	+54.3%	44.3%
合計	74,500 人	74,500 人	+88.1%	100.0%	12,200 人	7,900 人	+159.6%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

2月は、ANAの羽田－石垣路線の増便等により、離島方面(石垣・宮古)からの入込が増加したものの、成田からの入込は減少し、前年並みとなった。

3月は、多方面との競合があり、前年並みとなる見込み。団体旅行やスポーツイベント、ゴルフトーナメント関連商品が好調。4・5月は、好調に推移する見込み。

大阪

2月は、伊丹空港と関西空港からの入込が増加し、前年度を上回った。神戸－那覇路線でスカイマークの運休があり、方面全体の伸びはやや鈍化した。離島方面は宮古が好調のよう。

3月は、旅行商品の販売が苦戦しているものの、4月以降は早期割引等の効果もあり好調に推移する見込み。

福岡

2月は、団体・個人旅行ともに好調であり、出発間際に旅行商品の販売が伸びる傾向があったことから、前年度を上回った。スカイマーク運休の影響は、あまり顕著ではない。

3月以降は、予約状況は悪くないものの、春休みの学生・卒業旅行等で他方面(関西・関東)との競合が懸念されている。

名古屋

2月は、市場の動きが鈍く、スカイマークの減便の影響もあり、前年度を下回った。

3月以降は、春休みの旅行需要により予約状況は好調である。路線初のLCCであるジェットスターの新規就航も予定されているが、スカイマークの減便等の影響により、方面全体の提供座席は前年より減少しているため、大幅な増加は難しいと予想される。

台湾

2月は、引き続き訪日旅行が人気であり、春節の旅行需要もあり、前年度を上回った。高雄－那覇路線に華信航空の定期便が就航した(週2便)。

3月以降は、スタークルーズが例年より1ヶ月早く運航を開始するほか、航空路線の増便やチャーター便の就航も予定されていることから、空路海路ともに増加する見込み。

韓国

2月は、旧正月連休や春休みによる旅行需要と航空路線拡充の影響により、大幅に増加した。旧正月中のチャーター(ソウル－宮古、ソウル－石垣、釜山－那覇)はいずれも好調であった。

3月は、オフシーズン(新学期、連休なし)にあたり、アジアナ航空やジンエアーの減便が予定されていることから、冬場より鈍化が予想されるものの、堅調に推移する見込み。

中国本土・北京

2月は、春節の旅行需要の高まりにより、空路客が大幅に増加した。西安－那覇路線で首都航空のチャーター便が就航したことから、今後中国内陸部からの入込が期待できる。

3月は、春節後の落ち込みがあるものの、前年同月に比べ航空路線が拡充していることから、空路客を中心に増加する見込み。

中国本土・上海

2月は、春節の旅行需要と日並びの影響、航空路線の拡充およびクルーズ船の寄港により、空路海路ともに大幅に増加した。春節には、チャーター便(福州－那覇)の就航があった。

3月以降は、引き続き航空路線の拡充の影響により、空路客が増加する見込み。クルーズ船の寄港が予定されていることから、海路も好調に推移する見込み。

香港

2月は、春節とピーチアビエーションの香港－那覇路線の新規就航により、団体旅行・個人旅行ともに好調に推移し、前年同月を上回った。

3月以降は、夏場に向け需要が高まり、ピーチアビエーションの新規就航により空路客の増加が期待出来ることから、順調に増加する見込み。

平成27年（2015）3月 入域観光客数概況

3月の観光客数は、65万9000人
対前年（H26）同月比 +2万8,800人、+4.6%
～年度の過去最高を更新、初の700万人台～

入域状況

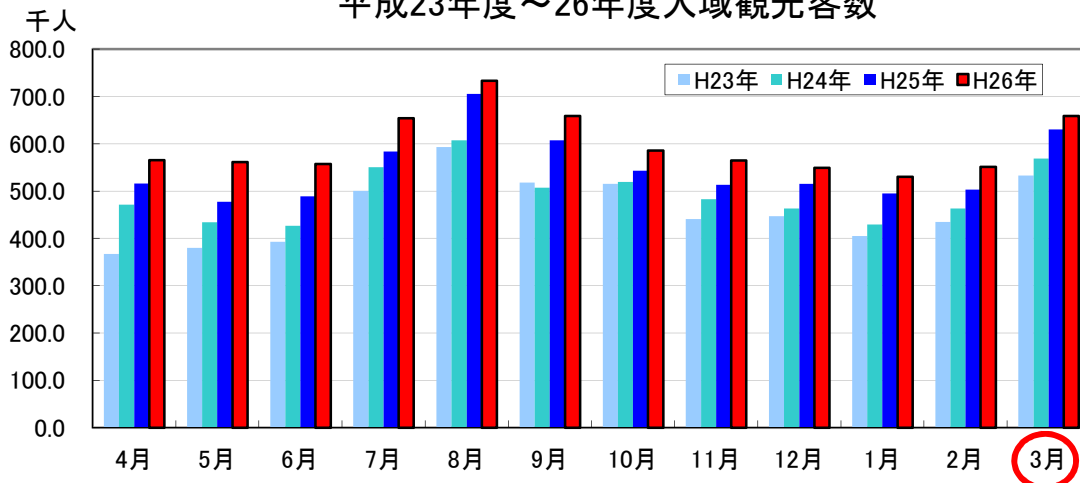
入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	580,000 人	581,500 人	△ 1,500人	△ 0.3%	88.0%
外国客	79,000 人	48,700 人	+ 30,300人	+ 62.2%	12.0%
合計	659,000 人	630,200 人	+ 28,800人	+ 4.6%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	580,000 人	581,500 人	△ 1,500人	△ 0.3%	88.7%
外国客	73,600 人	46,100 人	+ 27,500人	+ 59.7%	11.3%
合計	653,600 人	627,600 人	+ 26,000人	+ 4.1%	100.0%

平成23年度～26年度入域観光客数



国内客 入域状況

3月は、春休みの旅行需要等があり、関西や福岡方面の入込は好調であったが、東京及び名古屋方面は一部、航空路線の運休等の影響が続いたため、前年同月比では微減となり、17ヶ月ぶりに前年実績を下回った。

4月以降は、連休の予約状況が好調となっていることや、LCCの新規就航、各キャリアの増便による航空路線の拡充により、好調に推移する見込み。

外国客 入域状況

3月は、航空路線の拡充やクルーズ船の寄港回数の増により、台湾、韓国、中国、香港の重点市場からの入込が好調であった。

4月以降は、引き続き航空路線の拡充やクルーズ船の寄港回数増の見通しにより、空路・海路ともに増加する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	279,600 人	293,500 人	△ 13,900人	△ 4.7%	48.2%
関西方面	117,700 人	111,000 人	+ 6,700人	+ 6.0%	20.3%
福岡方面	71,700 人	66,900 人	+ 4,800人	+ 7.2%	12.4%
名古屋	45,800 人	48,500 人	△ 2,700人	△ 5.6%	7.9%
その他	65,200 人	61,600 人	+ 3,600人	+ 5.8%	11.2%
合計	580,000 人	581,500 人	△ 1,500人	△ 0.3%	100.0%

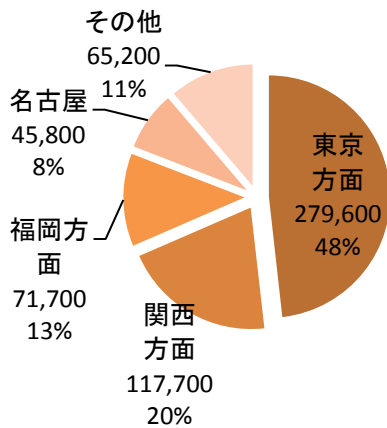
※国内海路客3,200人を含む(鹿児島2,400人、関西100人、その他700人)

外国客 国籍別入域状況

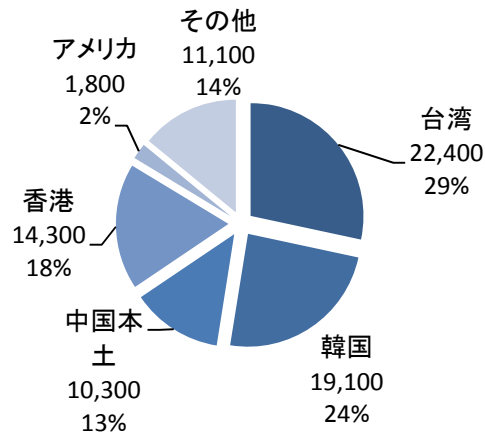
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H26年度	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	22,400 人	22,400 人	15,300 人	+ 7,100人	+46.4%	28.4%
韓国	19,100 人	19,100 人	10,100 人	+ 9,000人	+89.1%	24.2%
中国本土	10,300 人	10,300 人	8,600 人	+ 1,700人	+19.8%	13.0%
香港	14,300 人	14,300 人	8,100 人	+ 6,200人	+76.5%	18.1%
アメリカ	1,800 人	1,800 人	1,200 人	+ 600人	+50.0%	2.3%
その他	11,100 人	5,700 人	5,400 人	+ 5,700人	+105.6%	14.1%
合計	79,000 人	73,600 人	48,700 人	+ 30,300人	+62.2%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	18,700 人	18,700 人	+22.2%	28.0%	3,700 人	3,700 人	皆増	30.6%
韓国	19,100 人	19,100 人	+89.1%	28.6%	0 人	0 人	-	0.0%
中国本土	10,300 人	10,300 人	+178.4%	15.4%	0 人	0 人	皆減	0.0%
香港	14,100 人	14,100 人	+74.1%	21.1%	200 人	200 人	皆増	1.7%
アメリカ	900 人	900 人	+28.6%	1.3%	900 人	900 人	+80.0%	7.4%
その他	3,800 人	3,800 人	+35.7%	5.7%	7,300 人	1,900 人	+180.8%	60.3%
合計	66,900 人	66,900 人	+64.4%	100.0%	12,100 人	6,700 人	+51.3%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

3月は、前月からのANAの羽田－石垣路線の増便等により、前年同月に比べて、羽田の入込は増加したが、成田路線の減便が影響し、前年度を下回った。
4月以降は、ジェットスター・ジャパンの成田－那覇路線の増便や、連休は好調な予約状況となっていること等から、一定の増加が期待される。

大阪

3月は、スカイマークの神戸－那覇路線の減便の影響等があったものの、伊丹空港及び関西空港からの入込が順調に増加し、前年度を上回った。
4月以降は、ジェットスター・ジャパンの関西－那覇路線の増便や、連休の予約状況が好調となっていること、6月からANAの関西－宮古路線の約9年ぶりの再開が予定されていること等から、好調に推移する見込み。

福岡

3月は、前月からのスカイマークの減便の影響はあるが、前年同月に比べて全体の提供座席数は増加しており、前年度を上回った。
4月以降は、連休の予約状況が好調で、スカイマークの福岡－那覇路線の減便終了、ANAの福岡－石垣路線の運航が再開されること等から、好調に推移する見込み。

名古屋

3月は、春休みの旅行需要はあったものの、前月からのスカイマークの減便の影響が続き、前年度を下回った。
4月以降は、ジェットスター・ジャパンの名古屋－那覇路線の新規就航や、連休の予約状況が好調となっていることから、一定の増加が期待される。

台湾

3月は、スタークルーズ船が例年より1ヶ月早く運航開始したことや、航空路線の拡充から空路・海路ともに増加し、前年度を上回った。
4月以降は、クルーズ船の前年を上回る寄港の見通しや、航空路線の拡充やチャーター便の就航等が予定されており、空路・海路ともに順調に増加する見込み。

韓国

3月は、オフシーズン(新学期、連休なし)にあたったが、前年同月に比べて航空路線拡充の影響や、多様な旅行商品の販売等で好調を維持し、前年度を上回った。
4月以降は、旅客船沈没事故から1年の旅行自粛ムードが懸念されるが、個人旅行が伸びていることや、5月は2つの連休における予約状況が好調となっていることから、順調に増加する見込み。

中国本土・北京

3月は、春節後の落ち込みはあるものの、定期チャーター(西安－那覇)等による航空路線の拡充から空路客が増加し、前年度を上回った。
4月以降は、引き続き、航空路線の拡充による空路客の増加が見込まれるが、日本本土への花見旅行等の他方面との競合が懸念されることから、大幅な増加は難しいと予想される。

中国本土・上海

3月は、例年春節後の旅行需要は減少となるが、定期チャーター(杭州－那覇)等による航空路線の拡充から空路客が増加し、前年度を上回った。
4月以降は、中国東方航空の上海－那覇路線の増便等により航空路線が拡充することから、空路客を中心に増加する見込み。

香港

3月は、前月のピーチアビエーションの香港－那覇路線の新規就航等による航空路線の拡充で好調を維持し、前年度を上回った。
4月以降は、4月前半の連休による旅行需要や、香港ドラゴン航空の増便等により航空路線が拡充することから、空路客を中心に順調に増加する見込み。